

日本語



FLKEY 49



FLkey 2 49 ユーザーガイド

バージョン 5.0

目次

FLkey 2 49 - はじめに	4
主な特徴	5
同梱品	6
トラブルシューティング	6
FLkey 2 49 の使用を開始する	7
接続と電源供給	7
Easy Start	8
FLkey 2 49 をアップデートする	9
Novation Play が付属	9
FLkey 2 49 ハードウェア概要	10
FLkey 2 49 を FL Studio に接続する	13
インストール	13
トランスポート・コントロール	15
外部機器との接続	16
フェーダーモード	17
エンコーダーモード	22
パッドモード	26
Score Log	39
Undo/Redo	40
Metronome	40
Pattern/Song モードボタン	40
Channel Rack の選択項目の確認	41
ループ録音	41
FL Studio ウィンドウのフォーカス表示	42
FLkey 2 の鍵盤で演奏する	43
オクターブを変更する	43
キーのトランスポーズ	43
パートを用いた演奏	45
FLkey 2 49 の内蔵機能を使用する	48
アルペジエーター (Arp) を使用する	48
コードモードを使用する	53
スケールモードを使用する	64
Octave ボタン	66
カスタムモードと Components を使用する	67
カスタムモード	67
FLkey 2 49 をその他の DAW で使用する	69

HUI とは？	69
HUI に対応する DAW	69
お使いの DAW で FLkey 2 49 をセットアップする	69
HUI で使用できる機能は？	71
FLkey 2 49 の設定	72
FLkey 2 49 重量および寸法	75
その他の情報	76
トラブルシューティング	76
商標	76
免責事項	76
著作権および法定通知	76

FLkey 249 - はじめに

FL Studio のために作られたキーボードで、ビートのスケッチからトラックの仕上げまで、素早く行えます。フルサイズセミウェイテッド鍵盤、ベロシティ・センシティブ RGB パッド、エンコーダー、フェーダー、ボタンを駆使して FL Studio プロジェクトを自在にコントロール可能です。Image-Line から公式サポートを受けており、Channel Rack でのステップシーケンスからミキシング、パターンの作成、プラグインの操作まで、FL Studio の主要なツールやワークフローに本体から直接アクセスできます。

FL Studio のために作られた唯一のキーボードコントローラー

インストゥルメントの演奏、パターンの作成、ミックスのコントロール — FLkey 249 を使えば、Channel Rack や Step Sequencer、Sytrus、Harmor など、FL Studio 定番のツールやプラグインを本体から直接コントロールできます。

インスピレーションを逃さずキャプチャー

FLkey 249 は、演奏のしやすい four オクターブ・フルサイズ・セミウェイテッド鍵盤を搭載。さらに、ピッチベンドとモジュレーション・ホイールにより、表現力豊かな演奏が可能です。内蔵のクリエイティブなツールにより、メロディやコードの作成もこれまで以上に簡単になりました。音を外すことなく演奏できるスケールモード、指一本でコードを演奏できる固定コードモード、本格的なコード進行をパッドで演奏できるコードマップ・モードを利用できるほか、パワフルなアルペジエーターでインスピレーション溢れるシーケンスを簡単に作成することも可能です。

ビートメイキング

RGB パッドで Channel Rack のサンプルをトリガーしたり、パターンの作成、コピーを本体から直接行えます。リアルタイムにビートを叩きたい場合は、ベロシティ・センシティブ対応パッドでフィンガードラミングも可能。FPC、Slicex、Fruity Slicer にも対応します。

トラックを調整し仕上げよう

8 つのエンドレス・エンコーダーと 9 本の高精度フェーダーを用いて、レベル調整、フィルターのスイープ、エフェクト設定、プレイリストのナビゲーションなどが行えます。視認性の高い OLED ディスプレイを備え、操作中のパラメータをリアルタイムに確認できます。

さらに洗練されたデザイン

史上初めて FL Studio 専用に作られた MIDI キーボード・コントローラー『FLkey 1』の後継モデルとなる本機は、FL Studio の主要な機能とさらに深く連携します。セミウェイテッド鍵盤、表現力がさらに向上したポリフォニック・アフタータッチ対応パッド、視認性の高い OLED ディスプレイ、進化したクリエイティブなツールを備え、より快適で直感的な音楽制作が可能となります。

スタジオ全体を掌握

FLkey 2 49 は、スタジオ全体とシームレスに連携します。フルサイズの MIDI 出力ポートでシンセや MIDI 機器を接続できるほか、Novation Play や NKS プラグインの操作にも対応。Novation Components を用いてカスタムレイアウトを自由に作成することもできます。また、Mackie HUI 対応により、FL Studio 以外の DAW も柔軟にコントロール可能です。

主な特徴

• FL Studio 専用設計

- インストゥルメントの演奏、パターンの作成からミックスの調整まで自在にコントロール — Image-Line 公認の FLkey 49 を使えば、Channel Rack やミキサーなど FL Studio の主要な機能に本体から直接アクセスできます。

• ビートメイキング

- RGB パッドで Channel Rack のサンプルをトリガーしたり、パターンを直接作成できます。リアルタイムにビートを叩きたい場合は、16 個のポリフォニック・アフタータッチ対応ベロシティ・センシティブ・パッドで FPC、SliceX、Fruity Slicer をフィンガードラミングすることも可能です。

• ベースラインやメロディを思いのままに演奏

- 演奏しやすい 49 鍵セミウェイテッド鍵盤は、アイデアのスケッチに最適。ピッチホイールやモジュレーションホイールを用いて、表現力豊かな演奏が可能です。

• トラックを自在にミックス

- レベル調整、フィルターのスweepからエフェクト設定まで簡単に本体から操作 — すべてのパラメータは、8 つのエンドレス・エンコーダーと 9 本の高精度フェーダーに自動的にマッピングされます。

• コードバックは不要

- 内蔵のスケールモード、コードモード、パワフルなアルペジエーターを使えば、コード進行、メロディ、パターンを素早く簡単に作成できます。

• 必要な情報をすばやく確認

- 視認性の高い OLED ディスプレイにより、操作中のパラメータや演奏中のコードなど、必要な情報をひと目で確認できます。

• 鍵盤を分割・レイヤリング

- 鍵盤を 2 つの独立したゾーンまたはレイヤーに分割し、2 つのインストゥルメントを同時に演奏できます。

• その他のハードウェアを接続

- フルサイズの MIDI 出力ポートを搭載し、シンセや MIDI 機器を直接接続できます。

• カスタムコントロール

- Novation Components ソフトウェアを使って、FL Studio、プラグイン、外部ハードウェアの各パラメータを、FLkey 2 のパッド、フェーダー、エンコーダーへと簡単かつ自由にマッピングできます。
- **NKS 対応ハードウェア**
 - NKS (Native Kontrol Standard) に対応し、FLkey 2 とお使いの Native Instruments および NKS 対応ソフトウェアとの双方向連携が可能になります。

同梱品

- Novation FLkey 2 49
- USB -C to USB-A ケーブル (1.5 メートル)

トラブルシューティング

FLkey 2 49 を使い始めるためのヘルプが必要な場合は、こちらをご参照ください：

novationmusic.com/get-started

FLkey 2 49 に関して不明な点がある場合には、いつでもヘルプセンターをご利用いただけます。また、以下の URL からサポートチームにお問い合わせいただくことも可能です：

support.novationmusic.com

FLkey 2 49 を最新の状態に保つため、アップデートの有無を確認することをお勧めします。アップデートを行うことで最新の機能やバグフィックスが適用されます。FLkey 2 49 のファームウェアをアップデートするには、Components を使用する必要があります：

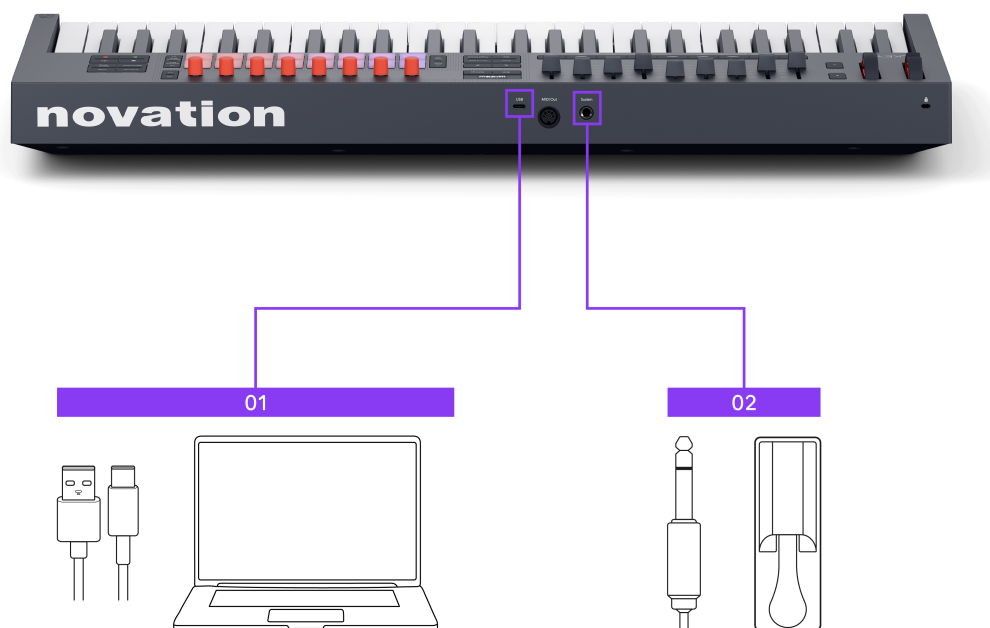
components.novationmusic.com

FLkey 2 49 の使用を開始する

接続と電源供給

FLkey 2 は USB バスパワーに対応します。USB-C to USB-A ケーブルでコンピュータに接続すると、本体の電源がオンになります。

また、FLkey 2 は 6.35mm (1/4 インチ) サステイン入力ジャックも備えます。サステイン・ペダルやモーメンタリー・フットスイッチを接続できます(2)。

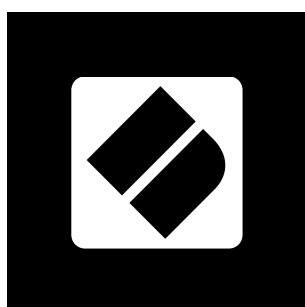


Easy Start

Easy Start は、FLkey 2 のセットアップを手順に沿って案内し、FLkey 2 の使用方法に応じてカスタマイズされたチュートリアルを提供します。また、FLkey 2 の製品登録やバンドル・ソフトウェアへのアクセスも案内します。

Windows または Mac に FLkey 2 を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置としてマウントされます。ドライブを開き、「Click Here To Get Started.url」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、Easy Start がウェブブラウザで開かれます。

Easy Start が開いたら、手順に沿って FLkey 2 のインストールと使用準備を行います。



Easy Start ツールを使用しない場合は、ウェブサイトアクセスして FLkey 2 の製品登録とバンドル・ソフトウェアへのアクセスを手動で行うことも可能です。

id.focusritegroup.com/register



重要

Easy Start を使用するかどうかに関わらず、FLkey 2 を最初に接続する際はファームウェアをアップデートすることが非常に重要です。

FLkey 2 のファームウェアをアップデートしないと、多くの機能が動作しない可能性があります。

FLkey 2 のファームウェアをアップデートするには、Novation Components を使用する必要があります。components.novationmusic.com にアクセスし、ファームウェアをアップデートしてください。

FLkey 249 をアップデートする

FLkey 49 のファームウェアは、Novation Components でアップデートできます。ファームウェアバージョンの確認とアップデートは、以下の手順で行います：

1. components.novationmusic.com にアクセスします。
2. FLkey 49 をクリックします。
3. ページ上部の **Updates** タブをクリックします。
4. 画面の指示に従いファームウェアのバージョン確認を行います。アップデートが必要な場合は、アップデート方法が表示されます。

Novation Play が付属

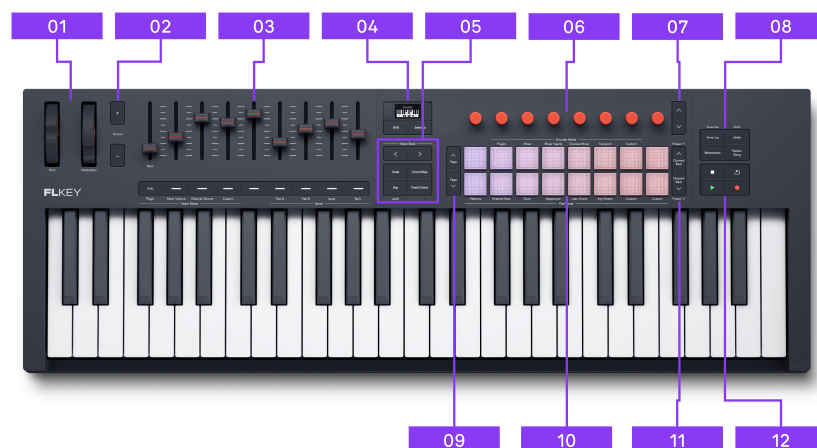
FLkey 49 には、多彩なキーボードやシンセサウンドが収録された Novation Play が付属し、すぐに演奏を始められます。スタンドアロンまたはお使いの DAW 上で動作し、ベース、リード、パッド、ピアノ、ドラムキットなど、Novation が厳選した豊富なサウンドをすぐに利用できます。

プラグインメーカー Klevgrand との共同開発により、Novation Play は FLkey 49 のキーボードや各コントロールとシームレスに連携します。

FLkey 49 ですぐにサウンドを使い始めたい場合は、FLkey 49 を製品登録し、以下の Novation アカウントページから Novation Play をダウンロードしてください。

id.focusritegroup.com/register

FLkey 249 ハードウェア概要

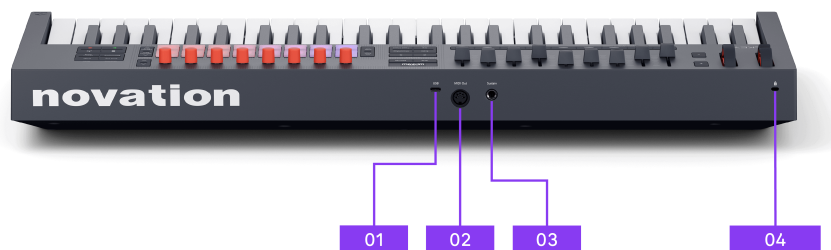


1. **ピッチおよびモジュレーション・ホイール。**
 - **ピッチホイール** - 演奏中のノートのピッチが変化すると同時に、ピッチベンド・メッセージが送信されます。
 - **モジュレーション・ホイール** - ハードウェアまたはソフトウェアの任意のパラメータを割り当てることができるホイールです。
2. **Octave+ / Octave - ボタン [43]** - 鍵盤をオクターブ単位でトランスポートします。Octave + ボタンと Octave - ボタンを同時に押すと、デフォルトのオクターブにリセットされます。
3. **フェーダーおよびフェーダーボタン** - 9 つの割り当て可能なフェーダーと、各フェーダー下部のボタンです。
4. **ディスプレイ、Shift ボタン、Settings ボタン** - ディスプレイと 2 つのボタン。
 - **ディスプレイ** - 重要な情報や、各コントロールや DAW のパラメーター値などを視覚的に表示します。
 - **Shift ボタン** - 各ボタンの二次的な機能 (フロントパネルに記載) を実行します。
 - **Settings ボタン [72]** - 設定メニューを開きます。
 - スタンバイモードに入るには、Shift ボタンと Settings ボタンを 2 秒間押し続けます。スタンバイモードを終了するには、Shift ボタンを再び押します。
5. **ディスプレイ下部の 6 つのボタン。**
 - **Mixer Bank ボタン** - ミキサートラックを 8 つのトラックで構成されるバンク毎に移動できます。**Shift** ボタンと同時に押すと、1トラック毎に移動できます。
 - **Scale ボタン [64]** - スケールモードを有効にします。
 - **Chord Map ボタン [54]** - コードマップ・モードを有効にし、コントロールします。
 - **Arp ボタン [48]** - アルペジエーター・モードを有効にし、コントロールします。

Latch ボタン - Shift ボタンを押しながら Arp ボタンを押すと、ラッチ機能を有効にできます。

- **Fixed Chord** ボタン [61] - 固定コードモードを有効にし、コントロールします。

6. **エンコーダー** - 割り当て可能なノブによるコントロールを行います。
7. **エンコーダー・バンク・ボタン** - 上 [^] / 下 [v] ボタン でエンコーダーのバンクを切り替えます。
8. **ワークフローボタン** - DAW 関連の機能を操作できる 4 つのボタン
 - **Score Log** - 直前の 5 分間に FL Studio に入力された MIDI ノートを記録します。
 - **Quantise** ボタン - DAW のクオンタイズ機能を実行し、グリッドにノートをスナップ (吸着) させます。
 - **Undo (Redo)** ボタン - DAW のアンドゥ機能を実行します。Shift ボタンを押しながら Undo ボタンを押すとリドゥ機能が実行されます。
 - **Metronome** ボタン - DAW のメトロノーム
 - **Pattern Song** ボタン - パターンモードとソングモードを切り替えます。
9. **Page ^ (アップ) および v (ダウン) ボタン** - パッド左側のボタンで、パッドを上下に切り替えます。
10. **パッド** - 16 個のアフタータッチ対応ベロシティ・センシティブ・パッドでパッドモードに応じた操作を入力します。
11. **Channel Rack (Preset) ^ (アップ) および v (ダウン) ボタン** - パッド右側のボタンで、チャンネルラックを上下にナビゲートします。Shift ボタンと同時に押すと、プリセットを変更できます。
12. **トランスポート・ボタン** - 左上から時計回り：停止、ループ、再生、録音。



1. **USB** ポート - USB Type-C ポート。データの送受信および、FLkey 49 への電源供給を行います。

2. **MIDI Out** ポート(DIN5 ピン) - FLkey 2 から外部 MIDI ハードウェアに MIDI 信号を送信します。
3. **Sustain** 入力 - サステイン・ペダルを接続します (エクスプレッション・ペダル、ソフト・ペダル、ソステヌート・ペダルには対応しません)。
4.  - ケンジントンロック。FLkey 2 を固定し、盗難から守ります。

FLkey 2 49 を FL Studio に接続する

FLkey 2 は FL Studio とシームレスに連携するように設計されており、FL Studio による音楽制作とパフォーマンスを強力にサポートします。また[カスタムモード \[67\]](#)を使うことで、ワークフローに合わせて FLkey 2 を好みにカスタマイズすることもできます。

インストール

FLkey 2 を使用する前に、ファームウェアが最新版であることをご確認ください。アップデートの手順は、ページ「[FLkey をアップデートする \[9\]](#)」をご参照ください。

FLkey 2 は、FL Studio バージョン 25 以降に対応しています。FLkey をコンピュータに接続した状態で FL Studio を開くと、FLkey 2 が自動的に検出され、FL Studio の MIDI 設定にセットアップされます。

手動による設定



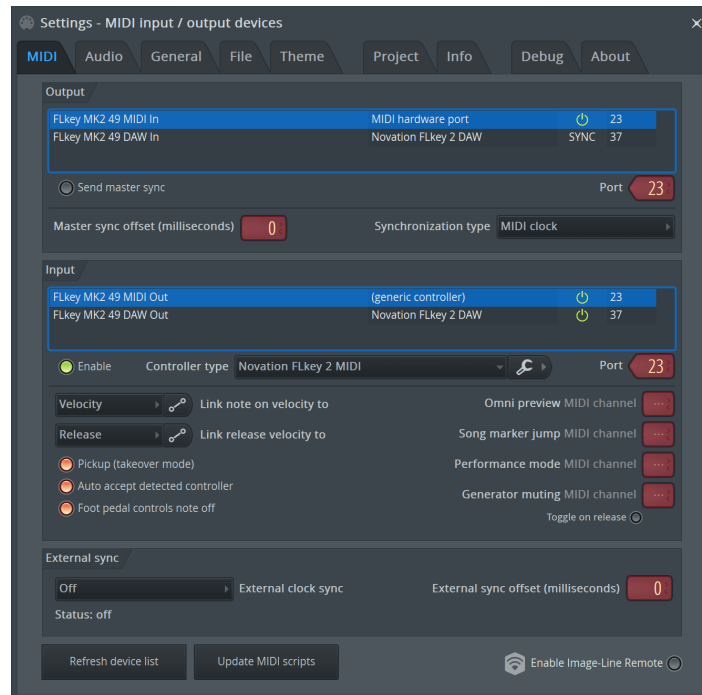
注記

通常は、FL Studio が FLkey 2 49 を自動的に認識します。FLkey 2 49 が認識されない場合は、以下をご確認ください。

問題が解決しない場合は、以下をご確認ください。

- FL Studio が最新バージョンであること。
- Novation Components で FLkey 2 49 のファームウェアが最新版に更新されていること。

FL Studio の MIDI 設定ウィンドウ (Options > 設定 > MIDI) を開き、以下のスクリーンショットと同様に設定されていることを確認します。MIDI 設定は、次ページの手順に従い手動で行うこともできます。



手動による設定方法

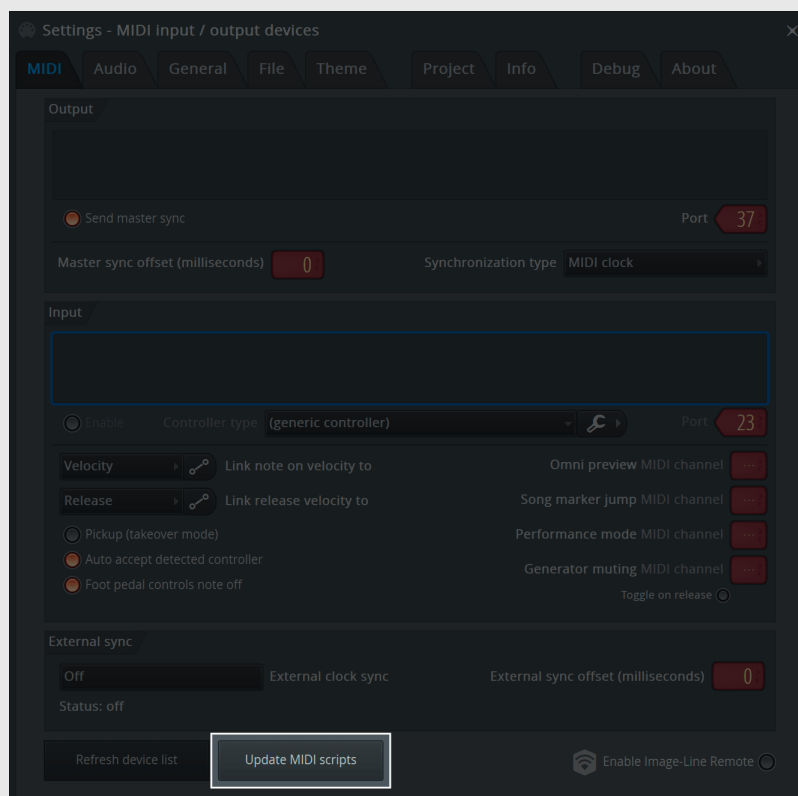
1. 「MIDI 設定」画面下部の「入力」パネルにある FLkey MIDI および FLkey DAW の入力ポートを有効にします。
 - FLkey MIDI Out
 - FLkey DAW Out (Windows では MIDIIN2 と表示)
2. 各項目をクリックし、下部の「**Port**」アイコンでそれぞれ異なるポート番号を設定します。
 - ポート番号は、未使用の任意の番号を使用できます。
 - MIDI ポートと DAW ポートで異なるポート番号を設定してください。
3. 各項目を選択し、スクリプトを割り当てます。
 - MIDI 入力をクリックし、「**Controller type**」ドロップダウンメニューから「FLkey 2 MIDI」を選択します。
 - DAW 入力をクリックし、「**Controller type**」ドロップダウンメニューから「FLkey 2 DAW」を選択します。
4. 「MIDI 設定」画面上部の「出力」パネルにある出力ポートをクリックし、「**Port**」番号を入力と一致するように設定します。
 - FLkey MIDI In
 - FLkey DAW In (Windows では MIDIOUT2 と表示)
 - 手順 3 で選択したスクリプトが自動的にリンクされます。
5. DAW 出力 (上部パネル) を選択し、「**Send master sync**」を有効にします。
6. 画面下部にある「**ピックアップ(引き継ぎモード)**」を有効にします。
7. 画面左下にある「デバイス一覧の更新」をクリックします。



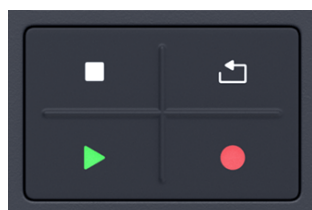
FLKEY 249 が MIDI 設定に表示されない場合

FLkey 249 用のスクリプトが FL Studio の MIDI 設定内に表示されない場合は、MIDI スクリプトを更新することで表示される場合があります。

MIDI スクリプトを更新するには、MIDI 設定ウインドウ下部にある「MIDI スクリプト更新」をクリックします。



トランスポート・コントロール



- 停止■ボタンは、再生の停止および再生位置のリセットを行います。
- ループボタンを押すと、FL Studio のループレコーディング機能のオン / オフを切り替えられます。

- 再生▶ボタンは、FL Studio の再生ボタンと同様に機能します。再生の一時停止と続行の操作も可能です。
- 録音●ボタンは、FL Studio の録音ボタンをトリガーします。

再生 / 停止ボタンを押すとリアルタイムに MIDI メッセージが送信され、FLkey 2 49 からハードウェア・シーケンサーやドラムマシンの再生 / 停止を直接コントロールできます。DAW を使用していない環境でも、セットアップ全体を同期させることが可能です。

外部機器との接続

FLkey 2 49 の MIDI 出力を外部 MIDI 機器の MIDI 入力に接続する

FLkey 2 49 は MIDI 出力ポートを備えており、コンピュータを使わずにシンセやドラムマシンなど外部 MIDI 機器へ MIDI ノート / コントロール信号を送信できます。スタンドアロンで使用する場合は、標準的な USB 電源アダプター (5V DC、500mA 以上) から電源を供給してください。

サステイン入力

TS ジャック入力で標準的なサステイン・ペダルを接続できます。プラグインによっては、サステイン・ペダル用の設定がされていません。その場合には、プラグイン内で適切なパラメータをサステイン・ペダルに割り当てる必要があります。

FLkey 2 のサステイン入力は、ペダルの極性を自動的に検出します。ソステヌート・ペダル、ソフト・ペダル、ボリューム・ペダルには対応しません。

フェーダーモード

FLkey 2 は 9 つのフェーダーを備え、モードに応じて FL Studio の様々な要素をコントロールできます。

デフォルトでは、Mixer Volume が選択されています。他のフェーダーモードには以下の手順でアクセスできます：

1. Shift ボタンを押します。
2. 目的のフェーダーモード・ボタンを押します。



モード	内容
Plugin	選択中のプラグイン内の 8 つのパラメータをコントロールします。 パラメータが変更されると、パラメータ名とパラメータ値が LCD 画面に一時的に表示されます。 Main フェーダーおよびフェーダーボタンは、FL Studio のマスターフェーダーをコントロールします。
Mixer Volume	ミキサーのフェーダーが 8 つずつにグループ (バンク) 分けされ、フェーダーに割り当てられます。 Main フェーダーおよびフェーダーボタンは、FL Studio のマスターフェーダーをコントロールします。
Channel Volume	チャンネルのボリュームが 8 つずつにグループ (バンク) 分けされ、フェーダーに割り当てられます。 Main フェーダーおよびフェーダーボタンは、FL Studio のマスターフェーダーをコントロールします。
Custom	任意のパラメータをフェーダーに割り当てることができます。

フェーダーのバンク切り替え

Mixer または Channel Volume のフェーダーモードでは、ミキサートラックとチャンネルのバンクを切り替えることができます。

- Mixer Volume モードでは、Mixer Bank ボタン (◀または▶) を押すことで、前/次の 8 トラックに選択が切り替わります。FL Studio の画面上では、エンコーダーでコントロールできるバンクが赤く選択されます。Shift ボタンを押しながら Mixer Bank ボタンを押すと、1 トラック単位で移動できます。
- Channel Volume モードでは、「Channel Rack」の▼または▲ボタンを押すことで、前/次のトラックまたはバンクに選択が切り替わります。FL Studio の画面上では、エンコーダーでコントロールできるバンクが赤く選択されます。

フェーダーモード : Plugin

Plugin モードでは、FLkey のフェーダーで選択中のプラグインの 8 つのパラメータをコントロールできます。ほとんどの FL Studio 純正プラグインは、FLkey のフェーダーモードに対応しています。

フェーダーを動かすと、FLkey 2 49 のディスプレイにプラグインパラメータ名と現在の値が一時的に表示されます。



注記

FL Studio 純正プラグインのパラメータ・マッピングは変更できません。サードパーティー製プラグインでは、カスタム・フェーダー・モードを使う事でマッピングを自由に作成できます。

フェーダーモード : Mixer Volume

Mixer Volume モードでは、FLkey 2 のフェーダーが FL Studio のミキサーフェーダーにマッピングされます。フェーダー 1~8 を用いて選択中のバンクに含まれるミキサートラックのボリュームをコントロールできます。

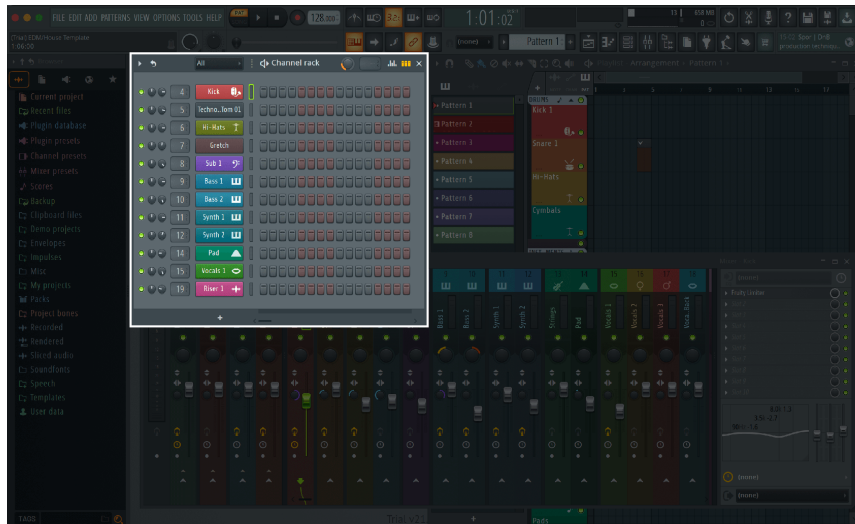
Mixer Volume モードを選択すると、FL Studio のミキサーウィンドウが前面に表示されます。



フェーダーモード : Channel Volume

Channel Volume モードでは、FLkey 2 の 8 つのフェーダーでチャンネルボリュームをコントロールできます。チャンネルボリュームは 8 チャンネル毎にグループ分けされます。

Channel Volume モードを選択すると、FL Studio の Channel Rack ウィンドウが前面に表示されます。



フェーダーモード : Custom

任意のパラメータをフェーダーに割り当て、最大 9 つのパラメータを同時にコントロールできるモードです。フェーダーとフェーダーボタンにより送信されるメッセージは、[Novation Components](#) で変更できます。

FL Studio のパラメータを FLkey 2 のフェーダーにマッピングするには :

1. FL Studio で目的のパラメータを右クリックします。
2. 2 つのリモート・コントロール・モードから、いずれかのモードを選択します (以下参照)。
3. フェーダーを動かすと、そのフェーダーにパラメータが割り当てられます。

選択できるリモート・コントロール・モード :

- コントローラーにリンク - パラメータが FL Studio で選択されているかに関わらず、パラメータとフェーダーが一対一でリンクされます。このリンクはプロジェクト単位で有効となります。
- グローバルリンクを上書き - プロジェクト毎のリンクで上書きされない限り、すべてのプロジェクトでリンクが有効になります。FL Studio で選択されている画面内のパラメータがコントロールされるため、1 つのフェーダーで複数のパラメータをコントロールできるのが特徴です。

フェーダーボタン

フェーダー下部のボタンを使うと、ミキサートラックやチャンネルのソロ/ミュートを切り替えることができます。

Mixer Volume のフェーダーモードを選択中にフェーダーボタンを押すと、FL Studio のミキサートラックをミュートまたはソロに設定できます。

Channel Volume のフェーダーモードを選択中にフェーダーボタンを押すと、FL Studio のチャンネルをミュートまたはソロに設定できます。



ソロ / ミュートモード



Solo ボタンが薄く点灯している場合、フェーダーボタンは FL Studio のミュートボタンと同様に機能します。

- ボタンを押すと、トラック/チャンネルのミュートをオン/オフできます。
- 各ボタンは、対応するチャンネル/トラックの色に点灯します。ミュート中のボタンは消灯します。

ソロモード

Solo ボタンを押すと、ソロモードが有効になります。有効時には Solo ボタンが点灯し、フェーダーボタンは薄暗く点灯します。

- 薄暗く点灯するフェーダーボタンを押すと点灯が明るくなり、そのトラック/チャンネルがソロに設定されたことを示します (FL Studio でのミュートボタンの CTRL+右クリックと同等の動作)。
- その他のフェーダーボタンを続けて押すと、そのトラック/チャンネルのソロのオン/オフを切り替えることができます (FL Studio でのミュートボタンの左クリックと同等の動作)。ソロに設定されたトラック/チャンネルは明るく点灯します。
- 単一のトラック/チャンネルのみを再びソロにしたい場合は、Solo ボタンを押し、目的のトラック/チャンネルのフェーダーボタンを押します。
- いずれかのトラック/チャンネルがソロに設定されているとき Solo ボタンを 2 度押しすると、プロジェクト内のすべてのトラック/チャンネルのミュートが解除されます。

FL Studio では、一度に 1 トラックのみをソロにできます。あるトラックをソロに設定すると、その他すべてのトラックがミュートされます。薄暗く点灯するフェーダーボタンを押すと、ミュートされたトラックのミュートを解除できます。



注記

Solo ボタンを二度押してソロモードを解除すると、すべてのトラック/チャンネルのミュートが解除されます。FL Studio で設定を変更することで、ソロにする直前のミュート/ソロ状態に戻すことも可能です。

二度押しでソロにする直前のミュート/ソロ状態に戻るよう設定するには、FL Studio の「OPTION > 一般設定 > ソロ解除時に以前の状態に戻す」を有効にします。

フェーダーのピックアップ機能

FL Studio に接続中、FLkey 2 は「ピックアップ(引き継ぎモード)」の設定に従って動作します。

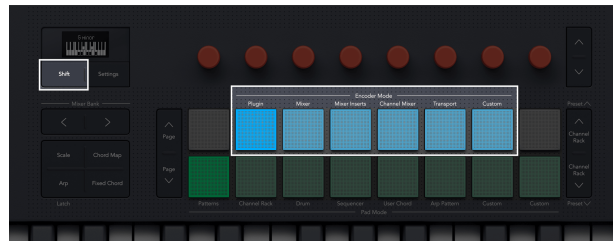
フェーダーを動かしても、保存された値にフェーダー値が達するまでパラメータは変更されません (パラメータ値のジャンプを防止する機能)。ピックアップ値に達するまでの間、LCD 画面には保存された値が表示され続けます。

エンコーダーモード

FLkey 49 は 8 つのエンコーダーを備え、モードに応じて FL Studio の様々なパラメータをコントロールできます。

エンコーダーモードを有効にするには：

1. Shift ボタンを長押し（または 2 度押し）すると、パッドが点灯しシフトモードが有効になります。エンコーダーモードは、上段のパッドで選択します。各パッド上部のテキストラベルは、選択できるエンコーダーモードを示しています。
2. 使用したいエンコーダーモードのパッドを押すと、モードが有効になります。利用可能なエンコーダーモードは、以下の表の通りです。



モード	内容
Plugin	選択中のプラグイン内の 8 つのパラメータをコントロールします。 パラメータが変更されると、パラメータ名とパラメータ値が LCD 画面に一時的に表示されます。
Mixer	Mixer Volume および Mixer Pan - エンコーダー・バンク・ボタンを押すと、ミキサーのボリュームとパンのコントロールを切り替えられます。 ミキサーのフェーダーが 8 つずつにグループ（バンク）分けされ、エンコーダーに割り当てられます。 ミキサーのパンニングが 8 チャンネル毎にグループ（バンク）分けされ、各エンコーダーに割り当てられます。
Mixer Inserts	インサートのミックスレベルをコントロールします。3 つのページがあり、ページを切り替えます。 • ページ 1 - ミキサーインサート 1~8 • ページ 2 - ミキサーインサート 9~10 • ページ 3 - イコライザー
Channel Mixer	Channel Volume および Channel Pan - チャンネルボリュームとパンのコントロールを切り替えます。 チャンネルのボリュームが 8 つずつにグループ（バンク）分けされ、エンコーダーに割り当てられます。 チャンネルのパンニングが 8 つずつにグループ（バンク）分けされ、エンコーダーに割り当てられます。
Transport	DAW のアレンジメント・ビューをエンコーダーで操作し、作業中のプロジェクトをマウスに触れることなく自由にナビゲートできます。
Custom	任意のパラメータを 8 つのエンコーダーに割り当てることができます。

エンコーダーモードのバンクについて

Mixer または Channel のエンコーダーモードでは、ミキサートラックやチャンネルのバンクを切り替えることができます。Channel Rack パッドモード使用時は、8 チャンネル単位でバンクが切り替わりま

す。その他すべてのパッドモードでは、一度に 1トラックまたは 1チャンネルずつバンクが切り替わります。

-
- Channel Volume モードおよび Channel Pan エンコーダーモードでは、「**Channel Rack**」▼または▲ボタンを押すと、選択中のバンクが前後に切り替わります。FL Studio の画面上では、エンコーダーでコントロールできるバンクが赤く選択されます。

Plugin エンコーダーモード

Plugin モードでは、FL Studio で選択中のプラグインに含まれる 8 つのパラメータを FLkey 2 のエンコーダーでコントロールできます。ほとんどの FL Studio 純正プラグインは、FLkey 2 のエンコーダーモードに対応しています。



注記

FL Studio 純正プラグインのパラメータ・マッピングは変更できません。サードパーティー製プラグインでは、Custom エンコーダーモードを使う事でマッピングを自由に作成できます。

Mixer エンコーダーモード

Mixer エンコーダーモードには、Mixer Volume と Mixer Pan のモードがあります。

Mixer Pan モードへ切り替えるには、Mixer エンコーダーモードでを押しながらエンコーダー・バンク・ボタンを押します。

Mixer Volume エンコーダーモード

Mixer Volume モードを使うと、8 つのエンコーダーで FL Studio のミキサーフェーダーを操作できます。ミキサートラックのボリュームは、8 つずつにグループ化され、ページを切り替えることで目的のトラックにアクセスできます。

Mixer Pan エンコーダーモード

Mixer Pan モードを使うと、8 つのエンコーダーで FL Studio ミキサーのパンニングを変更できます。ミキサーのパンニングは 8 チャンネル毎にグループ化され、ページを切り替えることで目的のトラックにアクセスできます。

Mixer Inserts エンコーダーモード

インサートのミックスレベルをコントロールします。

8 つ以上のインサートを設定している場合は、エンコーダー・バンク・ボタンを押すことで 8 つ毎のグループ (バンク) でコントロールするインサートを切り替えることができます。

Channel Rack エンコーダーモード

Channel Rack のミキサーボリュームとミキサーパンをコントロールする 2 つのモードを利用できます。

Channel Rack Mixer Pan モードを使用するには、Channel Mixer エンコーダーモードでを押しながら、エンコーダー・バンク・ボタン▼を押します。

Channel Rack Mixer Volume モード

Channel Rack Mixer Volume モードを使うと、FLkey 2 の 8 つのエンコーダーでチャンネルボリュームをコントロールできます。チャンネルボリュームは 8 チャンネル毎にグループ分けされます。

Channel Rack Mixer Pan モード

Channel Rack Mixer Pan モードを使うと FLkey の 8 つのエンコーダーでチャンネルのパンをコントロールできます。チャンネルパンは 8 チャンネル毎にグループ分けされます。

Transport エンコーダーモード

DAW のアレンジメント・ビューをエンコーダーで操作し、作業中のプロジェクトをマウスに触れることなく自由にナビゲートできます。

このモードでは、各エンコーダーの機能が省略名でディスプレイに表示されます。

エンコーダー	機能	省略名
1	トランスポート・ポジション (スクラブ)	Scrb
2	Zoom	Zoom
3	なし	なし
4	なし	なし
5	マーカー選択	Mark
6	なし	なし
7	なし	なし
8	BPM (テンポ)	BPM

Custom エンコーダーモード

任意のパラメータをエンコーダーに割り当て、最大 8 つのパラメータを同時にコントロールできるモードです。カスタムモードでエンコーダーから送信されるメッセージは、Novation Components で変更できます。

components.novationmusic.com

FL Studio のパラメータを FLkey のエンコーダーにマッピングするには：

1. FL Studio で目的のパラメータを右クリックします。
2. 2つのリモート・コントロール・モードから、いずれかのモードを選択します (以下参照)。
3. エンコーダーを動かすと、そのエンコーダーにパラメータが割り当てられます。

選択できるリモート・コントロール・モード :

- コントローラーにリンク - パラメータが FL Studio で選択されているかに関わらず、パラメータとエンコーダーが一对一でリンクされます。このリンクはプロジェクト単位で有効となります。
- グローバルリンクを上書き - プロジェクト毎のリンクで上書きされない限り、すべてのプロジェクトでリンクが有効になります。FL Studio で選択されている画面内のパラメータがコントロールされるため、1つのエンコーダーで複数のパラメータをコントロールできるのが特徴です。

パッドモード

FLkey 2 49 は 16 個のパッドを備え、モードに応じて FL Studio の様々な要素をコントロールできます。

パッドモードを有効にするには：

1. Shift ボタンを長押し (または 2 度押し) すると、パッドが点灯しシフトモードが有効になります。パッドモードは下段のパッドで選択します。各パッド下部のテキストラベルは、選択できるパッドモードを示しています。
2. 使用したいモードのパッドを押すと、パッドモードが有効になります。利用可能なパッドモードは、以下の表の通りです。



モード	内容
Patterns	FLkey のパッドを用いて内で新たなパターンを追加/選択できる機能です。
Channel Rack	Channel Rack の試聴およびチャンネル選択を行います。
Drum	選択中のインストゥルメントをコントロールします。FPC、Slicex、Fruity Slicer など一部のインストゥルメントは、独自のレイアウトで表示されます。
Sequencer	シーケンサーのステップを作成/編集できます。グラフエディタ全体の編集も可能です。
User Chord	最大 16 のコードを登録/トリガーできます。
Arp Pattern	Arp Pattern (アルベジオ・ パターン) モードでは、アルベジエーターをパッドでコントロールできます。この機能を使うことで、よりインタラクティブにアルベジオを編集できます。
Custom	任意のパラメータを 16 個のパッドに割り当てることができます。

Patterns パッドモード

FLkey のパッドを用いて内で新たなパターンを追加/選択できる機能です。

Patterns モードを有効にするには、Shift ボタンを押しながら Patterns pad を押します。

パッドが FL Studio 内の対応するパターンの色に点灯します。選択中のパターンのパッドは白く点灯します。パターンの色を割り当てるには、FL Studio で目的のパターンを右クリックし、名前/色の変更... または ランダム配色を選択します。



パッドを押すと、パターンが選択されます。Sequencer パッドモード [32] でパターンを編集することなどが可能です。

新規パターンを追加するには、空のパッドを押し、シーケンサービューにステップを追加します。

パターンを複製するには、複製したいパターンを選択した状態で **Shift** ボタンを押しながら Page ▼ ボタンを押します。



注記

空のパターンを編集する前に別のパターンを選択すると、空のパターンは消去されます (FL Studio 内での動作と同様)。

Channel Rack ▲▼ ボタンを押すことで、パッドに表示されるパターンを切り替えることができます。8 つのパターンが含まれるバンク毎に表示が切り替わります。

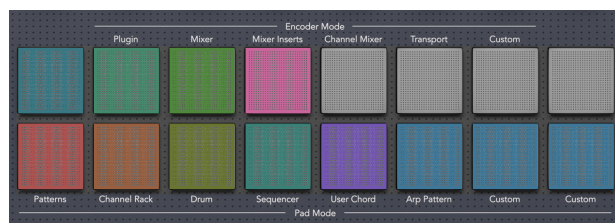
パターングループ

FL Studio では、パターンをグループ化できます。複数のパターンをグループ化することで、目的のパターンのみをフィルター表示できます。FLkey のパッドは、FL Studio で選択中のパターングループに応じて、グループに含まれるパターンのみを表示します。

Channel Rack パッドモード

Channel Rack パッドモードを使うと、最大 16 チャンネルの Channel Rack を同時に演奏できます。それぞれのパッドが各チャンネルの Channel Rack に相当し、パッドを押すことで C5 のノートがトリガーされます。パッドは、割り当てられたチャンネルの色に点灯します。

パッドを押すと対応するチャンネルが選択され、オーディオが再生されます。選択中のチャンネルラックに相当するパッドは白く点灯します。本体からは一度に 1 つのチャンネルを選択できます。



パッドのレイアウトは 8x2 行で、左から右、下段から上段の順に並んでいます。下段のパッドのチャンネルはチャンネルラックのパン/ボリュームエンコーダーのレイアウトに対応します。



Channel Rack のバンク切り替え

Channel Rack ▼ または Channel Rack ▲ ボタンを押すと、次/前のチャンネルへバンクを切り替えられます。Channel Rack の矢印ボタンは、その方向にバンクを切り替えられる場合に点灯します。この操作で選択中のチャンネルが切り替わることはありません。

ページボタンを押すと、Channel Rack が 8 つずつのグループ単位で切り替わります。

Channel Rack ▼ / Channel Rack ▲ ボタンを長押しすると、Channel Rack を自動スクロールできます。

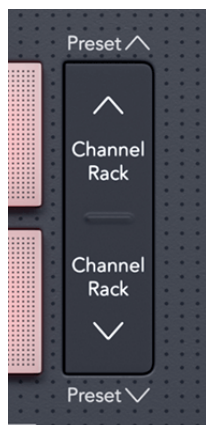
Channel Rack グループ

Channel Rack パッドのレイアウトは、FL Studio 内の Channel Rack グループに追従して変化します。FL Studio の Channel Rack ウィンドウ上部にあるドロップダウンメニューで Channel Rack グループを切り替えると、それに応じてパッドのレイアウトが変更されます。

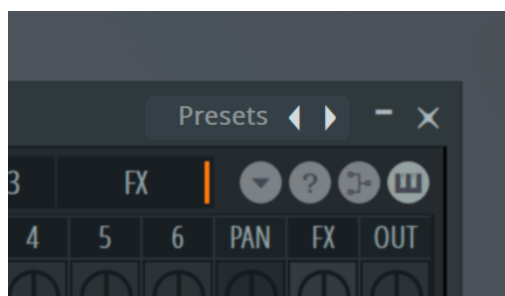
プリセットのナビゲーション

Channel Rack パッドモードでは、FLkey 2 でプリセットをスクロールできます。

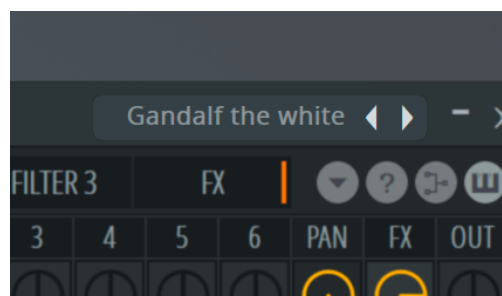
インストゥルメントやプラグインを選択し、Shift ボタンを押しながら Channel Rack ボタンを押すことで、次/前のプリセットを選択できます。鍵盤/パッドを押すとプリセットを試聴できます。



Preset ボタンは、FL Studio 内のプラグイン画面でプリセット◀▶をクリックしたときと同じ動作をします。



デフォルトのプリセット



プリセット▶ボタンをクリックした状態



注記

サードパーティ製プラグインの場合は、そのプラグイン付属のプリセットをブラウズすることはできません。ただし、FL Studio およびサードパーティ製プラグイン内で保存したプリセットはブラウズ可能です。

Drum パッドモード

Channel Rack プラグインを FLkey 249 からコントロールできるモードです。このモードを有効にするには、Shift ボタンを押しながら「Drum」ラベル上部のパッドを押します。以下のレイアウトが利用でき、パッドで MIDI ノートを入力できます。

- FPC パッド
- Slicex
- Fruity Slicer
- Kepler
- デフォルトの Drum レイアウト

デフォルトでは、パッド全体がクロマチック鍵盤のレイアウトとなります（下図参照）。インストゥルメントモード使用時にスケールモードを有効にすると、選択したスケールに含まれる 2 オクターブ内の 8 つの MIDI ノートが、パッドから出力されます。

Preset ▲ または Preset ▼ ボタン

FPC

Channel Rack に FPC プラグインを追加すると、FPC ドラムパッドを FLkey から演奏できます。FPC プラグインチャンネルを選択中のレイアウト：

- 左側の 4 x 2 のパッドで、FPC パッドの下半分をコントロールします。
- 右側の 4 x 2 のパッドで、FPC パッドの上半分をコントロールします。

FPC モードでは、パッドの色がチャンネルの色ではなく、FPC 独自の色に点灯します。

Slicex

Channel Rack に Slicex プラグインを追加すると、Slicex のスライスを FLkey のパッドでトリガーできます。

Page ◀または▶ (Shift + Channel Rack ▲/▼) ボタンで 16 スライス毎にページを切り替えることができ、それらをパッドでトリガーできます。

Fruity Slicer

Drum モード時に Channel Rack に Fruity Slicer プラグインを追加すると、Fruity Slicer のスライスを FLkey のパッドでトリガーできます。

Page ◀または Page ▶ ボタンで 16 スライス毎にページを切り替えることができ、それらをパッドでトリガーできます。

Default Instrument

その他のプラグインを Channel Rack に追加する、またはプラグインが何も追加されていない場合のレイアウトです。

デフォルトでは、パッドはクロマチック鍵盤のレイアウトとなり、C5 (MIDI ノート 84) が左下角のパッドに割り当てられます。この設定は FLkey の Scale モードで変更できます。

Sequencer パッドモード

Sequencer モードを使うと、FL Studio の Channel Rack 内のシーケンサー・グリッドを FLkey でコントロールでき、選択中のインストゥルメントやパターン内のステップを追加/変更可能です。

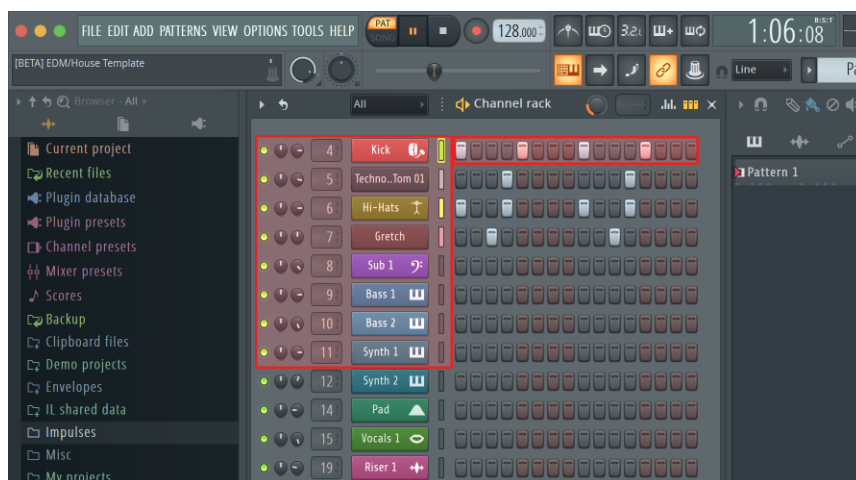
Sequencer モードを有効にするには、**Shift** ボタンを押し続けるか、2 度押ししてから **Sequencer** ボタンを押します。上段のパッドがステップ 1~8、下段がステップ 9~16 となります。

Sequencer モードを有効にすると、パッドが選択されている Channel Rack のトラックのステップを表示します。アクティブなステップはトラックの色に明るく点灯し、非アクティブなステップは同じ色で薄く点灯します。パッドを押すことで、ステップのオン/オフを切り替えられます。

Channel Rack ▲ および **Channel Rack ▼** ボタンを押すと、インストゥルメントを切り替えることができます。パッドは、編集集中のシーケンサーチャンネルの色で点灯します。

以下の図とスクリーンショットは、FL Studio の「Kick」チャンネルのシーケンサーで 4 つのステップがオンに設定され、それに応じて FLkey のパッドが点灯している様子を示しています。

トランスポート再生中は、再生位置のステップ (上図のステップ 6) が白く点灯します。シーケンサーを一時停止すると、停止時のステップ位置でパッドが白く点灯を続けます。トランスポートを停止した場合は、停止位置のパッドは消灯します。



再生ボタンを押すと、シーケンサーが再生を開始します。トランスポート再生中は、再生位置のステップが白く点灯します。再生ボタンを再度押すと、シーケンスの再生が停止します。FLkey 2 49 のトランスポートセクションで再生を実行する場合、シーケンサーは常にステップ 1 から再生を開始します。マウスでスタート位置を変更すると、FLkey 2 49 ではその位置がスタート位置となります。

Channel Rack グラフエディタ

Sequencer モードでは、エンコーダー 1~8 を用いてステップのパラメータを変更できます。グラフエディタの 8 つのパラメータが、左から右の順に各エンコーダーに割り当てられます (詳細は下の表を参照)。各エンコーダーには、直前に選択されていたエンコーダーモードが適用されます。グラフエディタを有効にするには、変更したいステップを長押しします。Channel Rack グラフエディタモードの詳細は、下の表の通りです。

パラメータを変更すると、FL Studio でグラフエディタが表示されます。たとえばステップのノート値を変更すると、それに応じてグラフエディタ・ウィンドウのノート値が変更されます。

ラッチ・エディット

シーケンサーステップのパラメータを編集できる機能です。ラッチ・エディット・モードを有効にするには、目的のステップを 1 秒以上長押しします。パッドがグラフエディタのパラメータの色に点灯し、ラッチ・エディット・モードが有効になったことを示します。これでステップから手を離してもモードが解除されることはなく、エンコーダーを動かしてステップのパラメータを変更できます。

任意のステップを押すことでラッチモードのステップを追加/削除でき、あらゆるパラメータ変更を選択中のすべてのステップに反映できます。

Channel Rack ▼ボタンを押すと、ラッチ・エディット・モードを解除できます。

クイック・エディット

ステップを押さえてから 1 秒以内にエンコーダーを動かすと、クイック・エディット・モードが有効になります。ステップパッドを押した状態でいずれかのエンコーダーを回すことで、グラフエディタ内のパラメータをコントロール可能です。パラメータの変更は、押されているすべてのステップに反映されます。

エンコーダーを動かしている間は FL Studio 上でグラフエディタが表示され、ステップから手を離すとグラフエディタが閉じられます。

クイック・エディット・モードを解除するには、押されているすべてのステップから手を離します。

複数のパラメータを編集するには、ステップパッドを押したまま目的のエンコーダーを操作します。

エンコーダー	グラフエディタのパラメータ
エンコーダー 1	Note Pitch
エンコーダー 2	Velocity
エンコーダー 3	Fine Pitch
エンコーダー 4	Panning
エンコーダー 5	Mod X
エンコーダー 6	Mod Y
エンコーダー 7	Shift
エンコーダー 8	Repeat

ユーザーコード・モード

ユーザーコード・モードを使うと、独自のコードを設定できます。

ユーザーコード・モードを有効にすると、コードが割り当てられたパッドが点灯します。下図の例では、5つのパッドにユーザーコードが割り当てられています。

青色のパッドを押すと、コードが発音されます。コード演奏中はパッドが白く点灯します。

ユーザーコード・バンクを変更する

パッドにユーザーコードを割り当てるには：

1. 点灯していない空白のパッドを長押しします。ディスプレイに鍵盤のイラストが表示されます。



2. ユーザーコードに記録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます（これにより、1本の手で演奏できないコードも登録できます）。最大6音のノートを記録可能です。7音目以上のノートは無視されます。コードに記録したノートとコード名がディスプレイに表示されます。



3. パッドを離します。

ユーザーコードのトランスポーズ

User Chord モードでは、左側にあるページ・アップ「Λ」/ダウン「V」ボタンでユーザーコード・バンク全体のキーをトランスポーズできます。

アップ「Λ」/ダウン「V」ボタンを押すと、トランスポーズが半音単位で実行されます。最大12セミトーン（1オクターブ）上下にトランスポーズ可能です。

Shift ボタンを押しながらアップ「Λ」/ダウン「V」ボタンを押すと、オクターブ（12セミトーン）単位のトランスポーズが可能です。これにより最大±3オクターブのトランスポーズが行えます。

ユーザーコードを削除する

割り当て済みのユーザーコードを削除するには、Channel Rack ▼ ボタンを押しながら削除したいコードパッドを押します。

ボタンを押している間、コードパッドが赤色に点灯し、ディスプレイに「Delete Chord!」と表示されます。

Arp Pattern モード

アルペジオ・パターン・モードでは、アルペジエーターをパッドでコントロールできます。この機能を使うことで、よりインタラクティブにアルペジオを編集できます。

Arp Pattern モードにアクセスするには、Shift ボタンを押しながらドラムパッド 13 を押します。

アルペジオ・パターン・モードを選択すると、「Pad Mode Arp Pattern」がディスプレイに一時的に表示されます。



Pad Mode
Arp Pattern

Arp Pattern モード

- アクティブなステップが青色に点灯し、非アクティブなステップは消灯します。アルペジエーターは点灯するステップのみを再生します。アルペジオ再生中は、パッド上段に現在のステップ位置が点灯します。
- 上段のドラムパッドでアルペジオのステップを無効にできます。パッドを押すことでアルペジオのシーケンスからステップが削除（休符が有効化）されます。
- 下段のパッドでは、アルペジオ・パターンの各ステップに対し追加のコントロールが行えます。ボタンを押すことで、3つの機能（[Accent \[38\]](#)、[Ratchet \[38\]](#)、[Tie \[37\]](#)）を切り替えることができます。

これらの手順は、アルペジオ・リズムでも同様です。アルペジオ・リズム・モードはグリッドに反映されます。アルペジオ・リズムの値を変更するとグリッドに表示されるパターンが変化し、変更を加えると上書きされます。

アルペジオ・タイ

アルペジオ・タイ（Arp Tie）を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・タイが設定されたステップが赤色に点灯します。

アルペジオ・タイは、アルペジオ・パターン内の2つのノートを結びます。アルペジオ・タイ・モードで下段のパッドを押すと、パッドが赤色に点灯し、対応するステップが次のステップに結ばれます。

アルペジオ・タイをステップに設定すると、アルペジオゲートが 110%に増加します。

アルペジオ・アクセント

アルペジオ・アクセント (Arp Accent) を有効にすると Function ボタンがオレンジ色に点灯し、アクセントが設定されたすべてのステップがオレンジ色に薄く点灯します。

ステップにアクセントを追加すると、アルペジオのステップのベロシティが通常時に比べ+30%増加します。

アクセント・ベロシティの上限値は 127 です。



注記

アクセントとラチェット [38]の両方がステップに設定されている場合、アクセント効果はいずれのノートにも適用されます。

アルペジオ・ラチェット

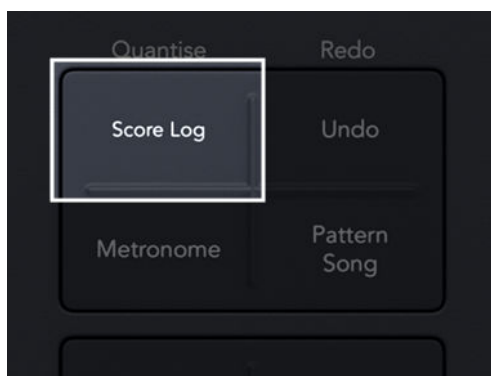
アルペジオ・ラチェット (Arp Ratchet) を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・ラチェットを設定したすべてのステップが黄色に薄く点灯します。

アルペジオ・ラチェットをステップに設定すると、そのステップで 2 つのトリガーが実行されます。たとえば 1/16 拍子のアルペジオの場合、ラチェットが設定されたステップでは 1/32 拍子のノートが 2 回再生されます。発音されるノートの音高は変わりません。

Custom パッドモード

任意のパラメータをパッドに割り当て、自由にコントロールできるモードです。パッドにより送信されるメッセージは、[Novation Components](#) で設定できます。

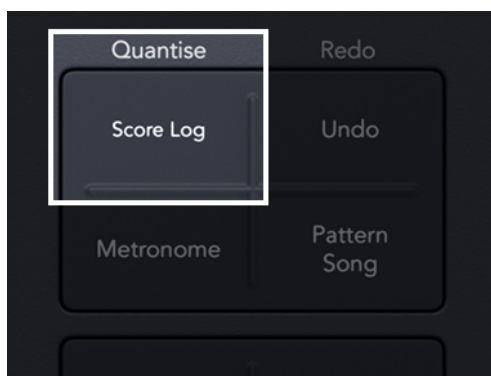
Score Log



Score Log ボタンを押すと、FL Studio が直前の 5 分間に受信したすべての MIDI ノートが選択中のパターンに挿入されます。パターン内に既にノートデータが存在する場合は、既存のノートを上書きするかを確認するメッセージが表示されます。

このボタンでは、FL Studio のメニュー「Tools > MIDI 鍵盤の演奏ログ>選択したパターンに貼り付ける」と同等の動作が実行されます。

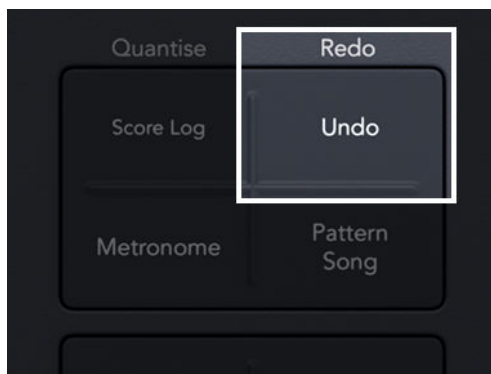
Quantise



Quantise ボタンを押すと、FL Studio は「quick Quantise start times」機能を実行し、選択中の Channel Rack チャンネルのピアノロールに含まれるすべてのノートの開始位置を、ピアノロールで設定されているスナップ位置にクオンタイズします。

クオンタイズモードにアクセスするには、Shift ボタンを押したまま Score Log ボタンを押します。

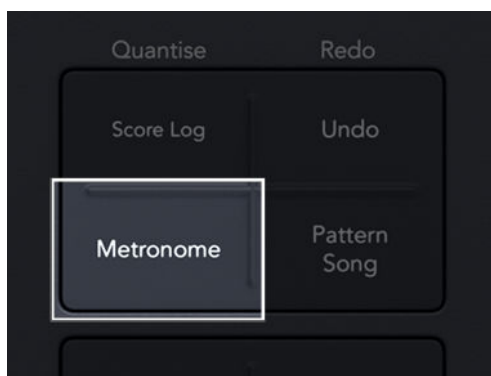
Undo/Redo



Undo および Redo ボタンを押すと、FL Studio のアンドウ/リドゥ機能が実行されます。FL Studio の「Alternate undo mode」設定は、これらのボタンの動作に影響しません。

元に戻す機能は、元に戻すボタンを押すことで使用できます。やり直し機能を使用するには、Shift キーを押しながら元に戻すボタンを押してください。

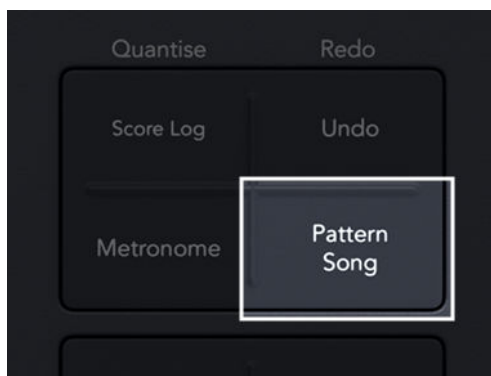
Metronome



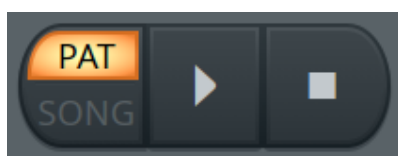
FL Studio のメトロノームのオン/オフを切り替えます。

Pattern/Song モードボタン

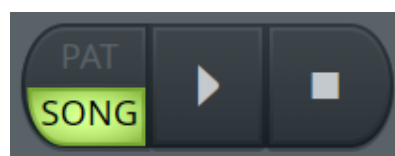
FL Studio のパターンモードとソングモードを切り替えるボタンです。



パターンモードでは、選択中のパターンが再生されます。ソングモードでは、プレイリストで選択中のアレンジメントが再生されます。



パターンモードがアクティブ



ソングモードがアクティブ

Channel Rack の選択項目の確認

どのパッドレイアウトモード時でも、FL Studio で Channel Rack が表示されている状態で **Shift** ボタンを長押しすると、現在の選択項目が表示されます。チャンネルバンクの選択、Channel Rack でのエンコーダーコントロールやチャンネルの選択を確認できます。Mixer エンコーダーモード時は、選択中のミキサーバンクが表示されます。

ループ録音

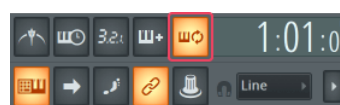
(初回起動時)

ループ録音のオン/オフは、FLkey では変更できません。ループ録音は、FLkey を FL Studio に初めて接続した際に有効にされます。ループ再生がオンの場合、録音中の選択パターンは長さが延長されることなく常にループします。

ループ録音を無効にするには、FL Studio のツールバーにある Loop Record アイコン (鍵盤と循環マーク) をクリックします。ループ録音を無効にすると、FLkey をコンピュータに接続し直してもループ録音設定は無効のままとなります。



ループ録音オフ



ループ録音オン

FL Studio ウィンドウのフォーカス表示

FLkey の操作の中には、操作に応じて FL Studio ウィンドウのフォーカスが変更されるものがあります。以下の操作は、Channel Rack をフォーカスします：

- パッドモード
 - Channel Rack
 - Sequencer
- エンコーダーモード
 - Channel Volume
 - Channel Pan
- シーケンサーのページを左右に切り替え
- Channel Rack でのチャンネル選択

以下の操作は、ミキサーをフォーカスします：

- エンコーダーモード
 - Mixer Volume
 - Mixer Pan
- ミキサーボリュームまたはミキサーパンをエンコーダーで変更
- ミキサーのバンク切り替え

以下の操作は、選択チャンネルのプラグインをフォーカスします：

- Plugin エンコーダーモードでパラメータを変更

FLkey 2 の鍵盤で演奏する

FLkey 2 の鍵盤は、トランスポーズおよびオクターブの変更が可能です。

オクターブを変更する

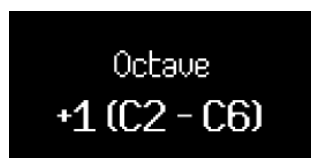
電源投入直後の FLkey 49 は、C3 が中央の C となるノート範囲 C1 - C5 で起動します (デフォルト)。

オクターブの範囲は、Octave +/- ボタンで変更します。FLkey 49 のオクターブは -3 to +4 オクターブ間で切り替えることができます。



変更したオクターブをデフォルトの範囲にリセットするには、Octave +/- ボタンを同時に押します。

オクターブ範囲を変更すると、変更値 (例 : +1) と現在のキーボードのオクターブ範囲 (例 : C1 - C5) がディスプレイに一時的に表示されます。



一時的な画面表示に加え、Octave ボタンの点灯によっても現在のオクターブを確認できます。

オクターブが変更されていない場合、Octave ボタンは薄く点灯します。オクターブを上に変更すると Octave + ボタンが、オクターブを下に変更すると Octave - ボタンが明るく点灯します。オクターブの変更値に応じて各ボタンの輝度変化します。

MIDI ノートの総数は 128 となっています。128 は 12 で割り切れないため、一部のキーは MIDI ノートの範囲外となります。MIDI ノート範囲の上端または下端までオクターブを変更した場合、MIDI ノート範囲外に位置する鍵盤は発音しません。

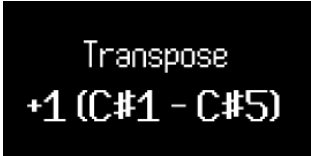
キーのトランスポーズ

FLkey 2 49 の鍵盤を半音単位で上下にトランスポーズできます。トランスポーズの範囲は ± 12 セミトーン (半音) です。

鍵盤のキーをトランスポーズするには、Shift ボタンを押しながら Octave -/+ ボタンを押します。
Octave - ボタンを押すと半音下に、Octave + ボタンを押すと半音上にトランスポーズできます。

変更したオクターブをデフォルトの範囲にリセットするには、Shift を押しながら Octave -/+ ボタンを同時に押します。

トランスポーズを変更すると、変更値と現在のキーボード範囲がディスプレイに一時的に表示されます。



Transpose
+1 (C#1 - C#5)

パートを用いた演奏

FLkey 2 では、2 種類のパートを利用できます。各パートに個別の MIDI チャンネルを設定でき、別々の MIDI チャンネルを同時に出力できます。MIDI チャンネルの設定は、[Settings \[72\]](#)メニューで行います。

2 つのパートは個別に演奏することも、鍵盤上で分割することも、レイヤー化することもできます。

パートモードを有効にするには、Shift ボタンを押しながらフェーダーボタン 6~9 を操作します。Shift を長押しする間、選択中のパートモードが明るい黄色に点灯し、それ以外のモードが薄い黄色に点灯します。



以下のパートモードを利用できます。

フェーダーボタン	パートモード	動作
6	Part A	鍵盤を演奏するとパート A の MIDI チャンネルが出力されます (デフォルトモード)。
7	Part B	鍵盤を演奏するとパート B の MIDI チャンネルが出力されます。
8	Layer	ノートがレイヤー化され、パート A とパート B の両方の MIDI チャンネルが同時に出力されます。
9 (Arm/Select)	Split	スプリットポイント未満の鍵盤がパート A、スプリットポイント以上の鍵盤がパート B の MIDI チャンネルを出力します。



ヒント

スプリット・パート・モードは、ベース楽器とリード楽器を同時に演奏する場合にとっても便利な機能です。以下の様な場面で活用できます。

- 低い鍵盤ではチェロ/ダブルベース、上のオクターブではバイオリンを左右の手でそれぞれ演奏。

- モノラルのベースシンセで低音を弾きながら、上のオクターブでポリフォニックのパッドサウンドを演奏。
- ベースギターのサンプルを左手で、ギターやピアノのサンプルを右手で演奏。

パートの分割ポイントを設定する

スプリットモードでは、パート B の一番低いノート (パートの分割点) を「スプリットポイント」と呼びます。パートのスプリットポイントを設定する手順は以下の通りです。

1. Shift ボタンを長押し (またはダブルタップでラッチ) します。
2. フェーダーボタン 8 (Split) を長押しします (パートモード : Split)。
3. Shift ボタンとフェーダーボタン 8 を押しながら鍵盤を弾くと、分割点を選択できます。
4. Shift ボタンとフェーダーボタン 8 を離すと、スプリットポイントが保存されます。



注記

ボタンを離すと、鍵盤がスプリットモードに切り替わります。

鍵盤を押すと、現在の分割点がディスプレイに表示されます。

Set Split
C3



注記

デフォルトのスプリットポイントは、C3 です。スプリットポイントはパート B の一番低いノートとなります。

FLkey 2 49 の内蔵機能を使用する

アルペジエーター (Arp) を使用する

アルペジエーター (Arp) で複数のノート (コード等) を同時に押さえると、FLkey 2 は各ノートを 1 音ずつ順番に発音します。

FLkey 2 のアルペジエーターを有効にするには、Arp ボタンを押します。Arp ボタンが点灯し、アルペジエーターのコントロールがエンコーダーに割り当てられた順序でディスプレイに表示されます。

1. BPM (テンポ) [49]
2. Swing (スウィング) [50]
3. Rate (レート) [50]
4. Gate (ゲート) [51]
5. Type (タイプ) [51]
6. Oct (オクターブ) [51]
7. Mut (ミューテート) [51]
8. Rytm (リズム) [52]



```
Arp
BPM Swing Rate Gate
Type Oct Mut Rytm
```



ヒント

Shift ボタンを押しながら Arp ボタンを押すと、アルペジエーターをラッチできます。アルペジオ再生中に鍵盤で同時に押さえたすべてのノートが、アルペジオの構成音として再生し続けます。再び鍵盤を押さえると、アルペジエーターは新しいノートのセットを構成音として上書きしアルペジオを再生します。

アルペジオラッチを使用すると鍵盤を押さえたままにする必要がないため、アルペジエーターの音作りを行う際に大変便利です。

アルペジオ・コントロール

アルペジエーター・モードでは、FLkey 2 の各エンコーダーでアルペジエーターをコントロールできます。エンコーダーを回すと、変更中のパラメータと値が FLkey 2 のディスプレイに一時的に表示されます。



Tempo
160bpm



ヒント

Shift ボタンを押しながらエンコーダーを回すと、値を変更せずにパラメーターがディスプレイに表示されます。

各エンコーダーで変更できるパラメータは以下の通りです。

エンコーダー	パラメータ	デフォルト値
1	BPM (テンポ)	120
2	Swing (スウィング)	0
3	Rate (レート)	1/16
4	Gate (ゲート)	50%
5	Type (タイプ)	Up
6	Oct (オクターブ)	1
7	Mut (ミューテート)	0%
8	Rytm (リズム)	0

アルペジオ・テンポ

FLkey 2 が MIDI クロックを受信していない場合、アルペジエーターの速さを BPM 単位で設定します。

エンコーダー 1 を回すことで、アルペジオのテンポを 40 ~ 240 BPM の範囲で変更できます。デフォルトのテンポは 120 BPM です。

FLkey 2 が MIDI クロックを受信している場合、エンコーダー 1 を回すと、テンポが外部 MIDI クロックに同期中であることがディスプレイに表示されます。

アルペジオ・スウィング

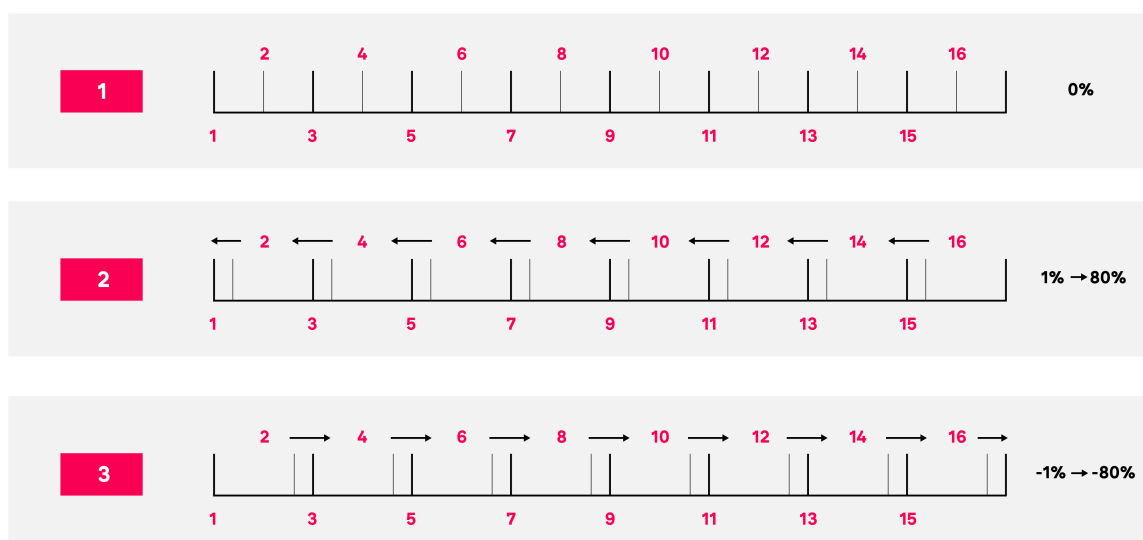
デフォルトでは、アルペジエーターのパターンの各ノートは等間隔で発音します。デフォルトのテンポ (BPM120) およびレート (16 分音符) の場合、各パターンは 2 秒毎に繰り返し、ステップ間隔は 1/8 秒となります。

アルペジエーターのスウィング (Swing) パラメーターをデフォルト値の 0% から変更することで、等間隔のステップのタイミングを変更 (オフビート) することができます。

エンコーダー 2 を回すと、-80% ~ +80% の範囲でスウィングを変更できます。

スウィング値をマイナスにすると、偶数ステップが直前の奇数ステップに対して前に移動し、偶数ステップの発音タイミングが速くなります。スウィング値をプラスにすると、偶数ステップが直前の奇数ステップに対して後ろに移動し、偶数ステップの発音タイミングが遅くなります。

以下の図は、スウィング設定での挙動を大まかに示しています。



アルペジオ・レート

エンコーダー 3 を回すことで、アルペジオのレート (Rate)、つまりアルペジオの速度を変更できます (単位は音価)。エンコーダーを調整することで、1 小節間に発音されるノートの頻度を設定できます。

以下のレートを選択可能です。

- 1/4
- 1/4 三連符
- 1/8
- 1/8 三連符
- 1/16
- 1/16 三連符
- 1/32
- 1/32 三連符

アルペジオ・ゲート

エンコーダー 4 は、アルペジオの各ノートの長さを設定します。0%～95%の範囲で設定可能です。



ヒント

ゲートはより長く設定することが可能です。詳細は、[アルペジオ・タイ \[37\]](#)の章をご参照ください。

アルペジオ・タイプ

エンコーダー 5 は、アルペジオのタイプを選択します。鍵盤で押さえられたノートやコードをどのように発音するかを設定します。

アルペジオ・タイプ	動作
Up	各ノートを下から上の順番に再生します。
Down	各ノートを上から下の順番に再生します。
Up/Down	各ノートを下から上の順番に再生して、上から下の順番に下降します。 両端のノート（最も高い音と最も低い音）は繰り返されません。
Up/Down 2	上昇と下降が切り替わる際、両端のノート（最も高い音と最も低い音）が繰り返し再生されます。
As Played	ノートを押さえた順番に再生します。
Random	押さえているノートをランダムに再生します。
Chord	すべてのノートをコードとして各ステップで再生します。
Strum	モジュレーション・ホイールを動かすとノートが発音されます。鍵盤を押さえたままモジュレーション・ホイールを上下に動かすことで、発音されるノートをコントロールできます。ギターのストラム奏法を再現する機能です。

アルペジオ・オクターブ

エンコーダー 6 は、アルペジエーターがノートを再生するオクターブ数を調整します。1～4 オクターブの範囲で設定可能です。

アルペジオ・ミューテート

エンコーダー 7 は、アルペジエーターに適用されるミューテート（変化）の割合を調整します。ミューテートは、すべてのアルペジオ・タイプで利用できます。

エンコーダー 7 は、アルペジオのノートにバリエーションを加えます。エンコーダーを回す、もしくは鍵盤を弾き直すことでアルペジオに新たな変化（ミューテート）が生じます。エンコーダーの操作を止めると、ノートの変化が止まり、その時点のパターンが繰り返されます。

エンコーダーの位置	適用され得るミューテーション (単位: 半音)
0	変更なし
1 - 19	+12
20 - 63	+12, -12, -7
64 - 100	+12, -12, -7, +7
101 - 115	+12, -12, -7, +7, +3, +4, +10
116 - 127	-12 ~ +12 のすべてのノート

アルペジオ・リズム

エンコーダー 8 を回すと、アルペジオのリズムが変更され、ディスプレイに現在のステップが表示されます。

エンコーダーを回す度にリズムのバリエーションが変化し、異なる休符のパターンが生成されます。

Arp Pattern モード

アルペジオ・パターン・モードでは、アルペジエーターをパッドでコントロールできます。この機能を使うことで、よりインタラクティブにアルペジオを編集できます。

Arp Pattern モードにアクセスするには、Shift ボタンを押しながらドラムパッド 13 を押します。

アルペジオ・パターン・モードを選択すると、「Pad Mode Arp Pattern」がディスプレイに一時的に表示されます。



Pad Mode
Arp Pattern

Arp Pattern モード

- アクティブなステップが青色に点灯し、非アクティブなステップは消灯します。アルペジエーターは点灯するステップのみを再生します。アルペジオ再生中は、パッド上段に現在のステップ位置が点灯します。
- 上段のドラムパッドでアルペジオのステップを無効にできます。パッドを押すことでアルペジオのシーケンスからステップが削除 (休符が有効化) されます。
- 下段のパッドでは、アルペジオ・パターンの各ステップに対し追加のコントロールが行えます。ボタンを押すことで、3 つの機能 ([Accent \[38\]](#)、[Ratchet \[38\]](#)、[Tie \[37\]](#)) を切り替えることができます。

これらの手順は、アルペジオ・リズムでも同様です。アルペジオ・リズム・モードはグリッドに反映されます。アルペジオ・リズムの値を変更するとグリッドに表示されるパターンが変化し、変更を加えると上書きされます。

アルペジオ・タイ

アルペジオ・タイ (Arp Tie) を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・タイが設定されたステップが赤色に点灯します。

アルペジオ・タイは、アルペジオ・パターン内の 2 つのノート結びます。アルペジオ・タイ・モードで下段のパッドを押すと、パッドが赤色に点灯し、対応するステップが次のステップに結ばれます。

アルペジオ・タイをステップに設定すると、アルペジオゲートが 110% に増加します。

アルペジオ・アクセント

アルペジオ・アクセント (Arp Accent) を有効にすると Function ボタンがオレンジ色に点灯し、アクセントが設定されたすべてのステップがオレンジ色に薄く点灯します。

ステップにアクセントを追加すると、アルペジオのステップのベロシティが通常時に比べ+30%増加します。

アクセント・ベロシティの上限値は 127 です。



注記

アクセントとラチェット [38] の両方がステップに設定されている場合、アクセント効果はいずれのノートにも適用されます。

アルペジオ・ラチェット

アルペジオ・ラチェット (Arp Ratchet) を有効にすると、Function ボタンとアルペジオ・ラチェットを設定したすべてのステップが黄色に薄く点灯します。

アルペジオ・ラチェットをステップに設定すると、そのステップで 2 つのトリガーが実行されます。たとえば 1/16 拍子のアルペジオの場合、ラチェットが設定されたステップでは 1/32 拍子のノートが 2 回再生されます。発音されるノートの音高は変わりません。

コードモードを使用する

FLkey 2 に搭載される 3 種類のコードモードを使用すると、より簡単にアイデアを形にしたり、クオリティの高い作品作りが可能になります。利用可能なコードモードは以下となります。

- ・コードマップ - スケールを選択しエンコーダーとパフォーマンスパッドで好みのコードバンクを選択し、ドラムパッドで演奏します。
- ・ユーザーコード - 制作中の楽曲で使用する主なコードを定義し、ドラムパッドに自由に割り当てます。

- 固定コード - 鍵盤でコードを設定し、1つの鍵盤でコードを演奏します。



注記

コードモードの MIDI チャンネルは、使用中の MIDI チャンネルと異なる場合があります。コードモードのデフォルト MIDI チャンネルは「3」です。MIDI チャンネルを変更するには、Settings ボタンを押し、「Chords Channel」が表示されるまでパッド左側のアップ「^」/ダウン「v」ボタンを押した後、パッドまたはエンコーダー1でチャンネルを設定します。

コードマップ

FLkey 2 のパッドおよびエンコーダーで選択したスケール内のコードを演奏できるモードです。コードマップの特徴は以下となります。

- 左端の 8 つのパッドは「コードパッド」となり、各パッドにコードが割り当てられ、パッドを押すことで選択したスケール内のコードを演奏できます。一度にアクセスできる 8 つのコードがバンクとして扱われ、合計 40 のコードバンクで構成されるコードマップからコードを選択できます。
- 右端の 6 つのパッドは「パフォーマンス・パッド」となり、コードパッドとは別の方法でコードを演奏できます (アルペジオやインバージョン)。パフォーマンス・パッドを押しながら青色のコードパッドを押すと、コードにパフォーマンス効果を適用できます (同じコードパッドを何度か押すことで、すべての効果を確認できます)。
- エンコーダーを回すと、Adventure、Explore、Spread、Roll のパラメーターでコードを変更できます。Adventure と Explore パラメーターを変更すると、8 つのコードで構成される 40 のバンクにアクセスできます。Spread と Roll パラメーターを変更すると、コードの響きが変化します。

コードマップにアクセスするには、Chord Map ボタンを押します。

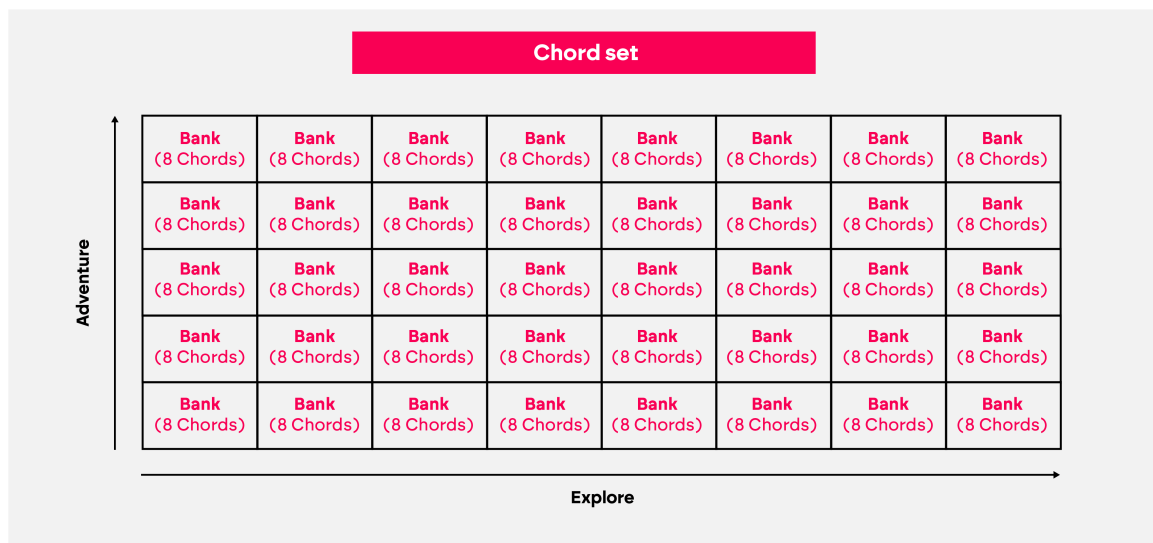
コードマップセット

コードマップでは、スケールモードで選択したキーおよびスケール内のコードセットを利用できます。

コードを演奏すると、コード名と発音中のノートがディスプレイに表示されます。

コードセット、および対応するスケールは、以下の表の通りです。

コードセット	スケール
Major (メジャー)	Major (メジャー)
	Major Pentatonic (メジャー・ ペンタトニック)
	Whole Tone (ホールトーン)
Minor (マイナー)	Minor (マイナー)
	Minor Pentatonic (マイナーペンタトニック)
	Blues (ブルース)
	Melodic Minor (メロディックマイナー)
	Hirajoshi (平調子)
	Kumoi (雲井)
	Hungarian Minor (ハンガリアンマイナー)
Dorian (ドリアン)	Dorian (ドリアン)
	Dorian #4 (ドリアン#4)
Mixolydian (ミクソリディアン)	Mixolydian (ミクソリディアン)
Lydian (リディアン)	Lydian (リディアン)
	Lydian Augmented (リディアン・ オーギュメント)
	Lydian Dominant (リディアン・ ドミナント)
Phrygian (フリジアン)	Phrygian (フリジアン)
	In Sen (陰線)
	Iwato (岩戸)
	Pelog-Selisir (ペログ・ スリシル)
	Half Whole Diminished (ハーフホール・ デイミニッシュト)
Locrian (ロクリアン)	Locrian (ロクリアン)
	Super Locrian (スーパーロクリアン)
Harmonic Minor (ハーモニックマイナー)	Harmonic Minor (ハーモニックマイナー)
	Bhairav (バイラブ)
	Whole Half Diminished (ホール・ ハーフ・ デイミニッシュト)
Harmonic Major (ハーモニック・ メジャー)	Harmonic Major (ハーモニック・ メジャー)
Phrygian Dominant (フリジアン・ ドミナント)	Phrygian Dominant (フリジアン・ ドミナント)
	Pelog-Tembung (ペログ・ トウンブン)
	8 トーン・ スパニッシュ



各コードセットは、最大 40 のコードバンクで構成されています。各コードバンクには Explore と Adventure のパラメーターがあり、それぞれの値を変更するにつれコードバンクが切り替わり、結果として様々な響きのコードにアクセスできます。

コードマップ・ パフォーマンス・ パッド

右端の 6 つのパッド (パッド 6 ~ 8 および 14 ~ 16) は、コードマップ・ パフォーマンスパッドとして機能します。これらのパフォーマンスパッドを押さえながらコードパッドを押すことで、様々な方法でコードが再生されます。

パフォーマンス・ パッドを使うと、次の通りにコードが変化します。詳細は、各項の解説をご参照ください。

パッド	動作
6	マニュアル・ アルベジオ・ アップ [58] - コードパッドを押すと、コードの構成音が順に再生されます。
7	インバージョン・ アップ [60] - パッドを押す度にコードの異なるインバージョンが再生されます。
8	スプリット : ベース + コード [61] - コードパッドを 2 回押すと、ベースノートとその他の構成音が続けて再生されます。
14	マニュアル・ アルベジオ・ ダウン [58] - コードパッドを押すと、コードの構成音が順に再生されます。
15	インバージョン・ ダウン [60] - コードの最初のインバージョンが再生されます。
16	スプリット : 左 + 右 [61] - コードパッドを 2 回押すと、右手と左手のバージョンが続けて再生されます。



注記

パフォーマンス・パッドは、一度に1つのみ使用できます。

パフォーマンス・パッドは、以下の手順でラッチできます。ラッチすることで、パフォーマンス・パッドを長押しせずに使用できます。

1. Channel Rack アップ「^」を押すと、ラッチ機能が有効になります。
2. ラッチしたいパフォーマンス・パッドをタップします。

ラッチ機能を有効にすると、Channel Rack アップ「^」ボタンが白色に点灯します。パフォーマンス・パッドは押す度にオンとオフが切り替わるようになります。

ラッチ機能を無効にすると、アクティブなパフォーマンス/修飾パッドが無効になります。

コードマップ・マニュアル・アルペジオ

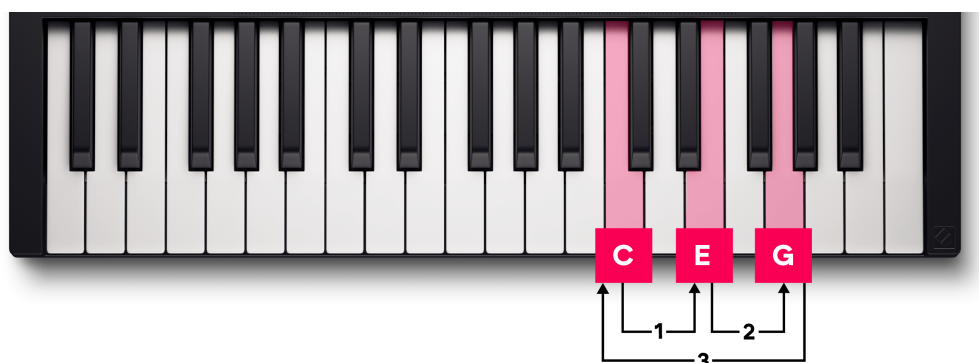
マニュアル・アルペジオのパフォーマンス・モード (マニュアル・アルペジオ・アップ、マニュアル・アルペジオ・ダウンの2つのモード) では、コードパッドを押してもコードは再生されず、コードの構成音がパッドを押す度に1音ずつ再生されます。たとえば、3音のコード (トライアド) の場合、コードパッドを3回押すことですべての構成音が再生されます。

コードを変更したり、パフォーマンスパッドを離すと、アルペジオの再生パターンがリセットされます。

マニュアル・アルペジオ・アップ

マニュアル・アルペジオ・アップ・モードでは、コードの構成音が低いノートから高いノートの順に再生され、それを繰り返します。

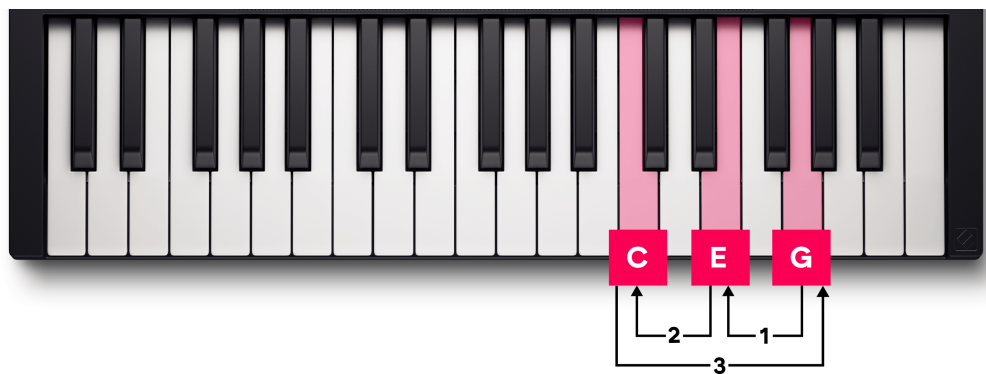
構成音がC、E、GのCメジャーコードの場合、マニュアル・アルペジオ・アップは、ノートをC、E、G、C、E、G... と繰り返し再生します。



マニュアル・アルペジオ・ダウン

マニュアル・アルペジオ・ダウン・モードでは、コードの構成音が高いノートから低いノートの順に再生され、それを繰り返します。

構成音が C、E、G の C メジャーコードの場合、マニュアル・アルペジオ・ダウンは、ノートを G、E、C、G、E、C... と繰り返し再生します。



コードマップ・ インバージョン

インバージョン・ パフォーマンス・ パッドを使用すると、コードパッドを押す度に異なるインバージョン (転回形) が再生されます。インバージョンとは、ルート音 (コード名のノート、C 等) がベースノート (最も低い音) でないコードの奏法です。

インバージョン・ パフォーマンス・ パッドを押しながらコードパッドを押す度に、コードの構成音のピッチが最も低いノートからオクターブ単位で上 (インバージョン・ アップ) または下に (インバージョン・ ダウン) 順に移動します。すべてのノートのオクターブが変更されると (コードパッドを 4 回押すと)、コードは元の状態に復帰します。

別のコードパッドを押したり、パフォーマンス・ パッドを離すと、インバージョンのサイクルがリセットされます。

インバージョン・ アップ

C メジャートライアド (C/E/G) でのインバージョン・ アップ・ モードの動作は以下の通りです。

動作	コードの構成音
パフォーマンス・ パッドを押さずにコードパッドを押した場合	C3、E3、G3
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 1 回タップ	C4、E3、G3 (第一転回形)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 2 回タップ	C4、E4、G3 (第二転回形)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 3 回タップ	C4、E3、G4 (1 オクターブ上に移動)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 4 回タップ	C3、E3、G3 (元のコードに復帰)

インバージョン・ ダウン

C メジャートライアド (C/E/G) でのインバージョン・ ダウン・ モードの動作は以下の通りです。

動作	コードの構成音
パフォーマンス・ パッドを押さずにコードパッドを押した場合	C3、E3、G3
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 1 回タップ	C3、E3、G2 (第二転回形)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 2 回タップ	C3、E3、G2 (第一転回形)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 3 回タップ	C2、E2、G2 (1 オクターブ下に移動)
インバージョン・ パッドを押しながらコードパッドを 4 回タップ	C3、E3、G3 (元のコードに復帰)

コードマップ・ スプリットモード

スプリットモードは、左右の手による鍵盤の演奏を再現します。

- 「スプリット：ベース+コード」パッドを押しながらコードパッドを1回タップすると、ベースノートが再生されます。2回タップすると、残りの構成音が再生されます。
- 「スプリット：左+右」パッドを押しながらコードパッドを1回タップすると、コード内の低いノート2音が再生されます。2回タップすると、残りの構成音が再生されます。

その他のモードと同様、コードを変更する、もしくはパフォーマンス・パッドを離すと、サイクルガリセットされます。

いずれのモードでも、最初のタップではコード構成音が同時和音として一度に再生され、2回目のタップでは構成音が素早くアルペジオで再生されます。

固定コードモード

固定コードモードを使用すると、コードを鍵盤に割り当てることができます。最大6つのノートを構成音として登録でき、登録したコードは鍵盤上で上下にトランスポーズさせることができます。

固定コードを割り当てる

1. Fixed Chord ボタンを長押しします。
2. 固定コードに登録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます(これにより、1本の手で演奏できないコードも記録できます)。コードを登録すると、コード名とノートがディスプレイに表示されます。
3. Fixed Chord ボタンから手を離すと設定が完了します。

固定コードにノートと音程が登録され、固定コードモードを有効になります。

Fixed Chord ボタンを押すと、固定コードモードのオン/オフを切り替えることができます。固定コードモードをオンにすると、最後に保存されたコードが有効になります。固定コードを登録し直すには、上記の手順を繰り返します。コードを登録し直すと、前回登録したコードは削除されます。

固定コードを削除する

1. Fixed Chord ボタンを長押しします。
2. いずれかの鍵盤を押します。
3. Fixed Chord ボタンから手を離すと設定が完了します。

ユーザーコード・モード

ユーザーコード・モードを使うと、独自のコードを設定できます。

ユーザーコード・モードを有効にすると、コードが割り当てられたパッドが点灯します。下図の例では、5つのパッドにユーザーコードが割り当てられています。

青色のパッドを押すと、コードが発音されます。コード演奏中はパッドが白く点灯します。

ユーザーコード・バンクを変更する

パッドにユーザーコードを割り当てるには：

1. 点灯していない空白のパッドを長押しします。ディスプレイに鍵盤のイラストが表示されます。



2. ユーザーコードに記録したいノートを鍵盤で演奏します。コードを一度に弾くことも、1音ずつ鍵盤を押すこともできます（これにより、1本の手で演奏できないコードも登録できます）。最大6音のノートを記録可能です。7音目以上のノートは無視されます。コードに記録したノートとコード名がディスプレイに表示されます。



3. パッドを離します。

ユーザーコードのトランスポーズ

User Chord モードでは、左側にあるページ・アップ「Λ」/ダウン「V」ボタンでユーザーコード・バンク全体のキーをトランスポーズできます。

アップ「Λ」/ダウン「V」ボタンを押すと、トランスポーズが半音単位で実行されます。最大12セミトーン（1オクターブ）上下にトランスポーズ可能です。

Shift ボタンを押しながらアップ「Λ」/ダウン「V」ボタンを押すと、オクターブ（12セミトーン）単位のトランスポーズが可能です。これにより最大±3オクターブのトランスポーズが行えます。

ユーザーコードを削除する

割り当て済みのユーザーコードを削除するには、Channel Rack ▼ ボタンを押しながら削除したいコードパッドを押します。

ボタンを押している間、コードパッドが赤色に点灯し、ディスプレイに「Delete Chord!」と表示されます。

スケールモードを使用する

スケールモードは、選択したスケールで簡単に演奏ができる機能です。

Scale ボタンを押すと、スケールモードが有効になります。スケールモードを有効にすると、選択中のスケールがディスプレイに表示されます。



スケールを変更する

スケールの変更は、左側の 3 つのエンコーダーで行います。

1. エンコーダー 1 は、スケールのルート音を設定します。デフォルトのノートは C です。
2. エンコーダー 2 は、スケールを変更します。デフォルトのスケールはメジャースケールです。
3. エンコーダー 3 は、スケールモードを変更します。以下の 3 つのスケールモードを選択可能です。
 - [Snap to Scale \(スナップ・トゥ・スケール\) \[65\]](#)
 - [Filter out of Scale \(フィルター・アウトオブ・スケール\) \[65\]](#)
 - [Easy Scale \(イージースケール\) \[65\]](#)

デフォルトモードは、Snap to Scale です。



ヒント

Shift ボタンを押しながらエンコーダーを回すと、値を変更せずにパラメーターがディスプレイに表示されます。

スケール

スケールモードでは、以下のスケールを選択できます (エンコーダー 2 で選択)。

スケール	
Major (メジャー)	Dorian #4 (ドリアン#4)
Minor (マイナー)	Phrygian Dominant (フリジアン・ドミナント)
Dorian (ドリアン)	Melodic Minor (メロディックマイナー)
Mixolydian (ミクソリディアン)	Lydian Augmented (リディアン・オーギュメント)
Lydian (リディアン)	Lydian Dominant (リディアン・ドミナント)
Phrygian (フリジアン)	Super Locrian (スーパーロクリアン)
Locrian (ロクリアン)	8-tone Spanish8 (トーン・スバニッシュ)
Whole Tone (ホールトーン)	Bhairav (バイラブ)
Half Whole Dim (ハーフ・ホール・ディミニッシュト)	Hungarian Minor (ハンガリアンマイナー)
Whole Half Diminished (ホール・ハーフ・ディミニッシュト)	Hirajoshi (平調子)
Blues (ブルース)	In-Sen (陰旋)
Minor Pentatonic (マイナーペンタトニック)	Iwato (岩戸)
Major Pentatonic (メジャー・ペンタトニック)	Kumoi (雲井)
Harmonic Minor (ハーモニックマイナー)	Pelog-Selisir (ペログ・スリシル)
Harmonic Major (ハーモニック・メジャー)	Pelog-Tembung (ペログ・トゥンブン)

Snap to Scale (スナップ・トゥ・スケール)

Snap to Scale モードでは、FLkey 2 で演奏されたノートが選択中のスケールに含まれない場合、スケール内の最も近い構成音のノートが強制的に発音されます。

Filter out of Scale (スケールフィルター)

Filter out of Scale モードでは、選択中のスケールに含まれないノートは無視されます。つまり演奏されたノートがスケールの構成音でない場合、そのノートは発音されません。

Easy Scale (イージースケール)

Easy Scale モードでは、選択中のスケールに含まれるすべてのノートが FLkey 2 の白鍵にマッピングされます。



ヒント

7 音未満のスケールを選択した場合は、鍵盤上のオクターブと一致しくなくなります。そのため、このモードでは白鍵を上下に演奏 (グリッサンド) することで、ハーブの様な奏法が可能です。

Octave ボタン

Octave ボタンを押すと、鍵盤のオクターブが1つずつ増減します。FL Studio ではオクターブを C0〜C10 の範囲で変更でき（その他のソフトウェアでは C-2〜G8）、Shift ボタンを押さえたまま Octave ボタンを押すと、鍵盤を半音単位でトランスポーズできます。

オクターブを変更すると、LCD ディスプレイに現在のオクターブ値が表示されます。現在のオクターブ範囲は Octave +/- ボタンの明るさで確認でき、ボタンが明るく点灯するほどオクターブが移動されていることを示します。

Octave の +/- ボタンを同時に押すと、オクターブがリセットされます。Shift ボタンを押しながら Octave の +/- ボタンを同時に押すと、トランスポーズがリセットされます。

Shift ボタンを押しながら Octave の + または - ボタンを押すと、鍵盤が半音単位でトランスポーズされます。このとき LCD ディスプレイにトランスポーズ値が表示されます。

カスタムモードと Components を使用する

カスタムモードは、各コントロールセクションを操作するための独自の MIDI テンプレートを作成できる機能です。テンプレートは Novation Components で作成し、FLkey に送信できます。

Components を使用するには、WebMIDI 対応のブラウザ (Google Chrome、Opera または Firefox を推奨) で components.novationmusic.com にアクセスします。もしくは Novation のアカウントページから、Components のスタンドアローン版をダウンロードしてください。

カスタムモード

Novation Components で設定を行うと、FLkey 2 49 のエンコーダーやパッドからカスタムメッセージを送信できます。これらのカスタムメッセージ設定は、カスタムモードと呼ばれます。カスタムモードは、Shift ボタンを押しながら Custom パッドを押すことで有効にできます。

カスタムモードにアクセスするには、Shift キーを押しながらカスタムモードパッドのボタンを押してください。



注記

カスタムモード使用時は、16 のペロシティセンシティブ対応パッドが受信した MIDI メッセージに応じて点灯します。これにより、外部ハードウェアやソフトウェアからの入力信号を視覚的に確認でき、システム設定やライブパフォーマンス時の操作性を向上します。

カスタム・エンコーダー・モード

FLkey 2 では、1 つのカスタム・エンコーダー・モードを利用できます。このモードにアクセスするには、Shift ボタンを押したままエンコーダーモードの Custom ボタンを押します。Components を使用して、任意の CC 番号をノブに設定することができます。

何も設定しない場合、カスタム・エンコーダー・モードではデフォルト設定のメッセージが送信されます。FL Studio の「マルチリンクコントローラ」機能を用いて、エンコーダーを FL Studio のパラメータに割り当てることも可能です。

カスタム・パッド・モード

FLkey 2 では、2 つのカスタム・パッド・モードを使用できます。カスタム・パッド・モードにアクセスするには、Shift ボタンを押したまま Custom パッドを押します。Components を使用すると、パッドの出力を設定することができます。

何も設定しない場合、カスタム・パッド・モードではデフォルト設定のメッセージが送信されます。FL Studio の「マルチリンクコントローラ」機能を用いて、パッドを FL Studio のパラメータに割り当てることも可能です。

カスタム・フェーダー・モード

FLkey 2 では、1つのカスタム・フェーダー・モードを使用できます。カスタム・フェーダー・モードにアクセスするには、Shift ボタンを押したまま Custom パッドを押します。[Components](#) を使用すると、フェーダーの出力を設定することができます。

何も設定しない場合、カスタム・フェーダー・モードではデフォルト設定のメッセージが送信されます。FL Studio の「マルチリンクコントローラ」機能を用いて、フェーダーを FL Studio のパラメータに割り当てることも可能です。

FLkey 2 49 をその他の DAW で使用する

FLkey 2 49 は、他の様々な DAW でも使用できます。HUI モードに対応し、専用のスクリプトがなくても、FLkey 2 49 の主要な機能を利用可能です。



注記

HUI モードでは、通常の DAW のコントロールとは異なる機能が提供されます。

HUI とは？

HUI (Human User Interface) は、MIDI コントローラーと DAW が特別なスクリプト無しで通信するための MIDI プロトコルです。専用のコントローラー・スクリプトが用意されていない場合でも、DAW が HUI に対応していれば使用できる可能性があります。

HUI でコントロールできる基本的な機能の例は以下の通りです。

- ミキサーのコントロール (ボリューム、パン、ミュート / ソロ)
- トランスポート・コントロール (再生、停止、録音)
- トラック選択

HUI に対応する DAW

HUI を使うことで様々な DAW で FLkey 2 49 を使用できます。本マニュアルでは以下の DAW ソフトウェアのセットアップ方法を紹介していますが、その他の DAW でも基本的な設定手順は同様です：

- Reaper (partial HUI)
- Fender Studio Pro
- Pro Tools

お使いの DAW で FLkey 2 49 をセットアップする

多くの DAW では、HUI 連携機能は自動で有効になりません。FLkey 2 49 を HUI で動作させるには、いくつかの設定を変更する必要があります。

Pro Tools

1. **Pro Tools > 設定 > パリフェラル...**を選択します。
2. 「**MIDI Controllers**」タブをクリックします。
3. 「**Type**」で「**HUI**」を選択します。
4. 「**Receive From**」で以下を選択します。
 - Windows : **Predefined > MIDIIN2(FLkey 2 49 MIDI)[Emulated]**
 - macOS : **Predefined > FLkey 2 49 DAW Out**
5. 「**Send To**」で以下を選択します。
 - Windows : **Predefined > MIDIOUT2 (FLkey 2 49 MIDI)[Emulated]**
 - macOS : **Predefined > Predefined > FLkey 2 49 DAW In。**
6. 正しくセットアップされていると、設定は以下のようになります (「**# Ch's** が 8 に設定」)。
7. 「**OK**」をクリックします。

Reaper

Windows

1. メニューから「Options」 > 「Preferences...」を選択します。
2. 「**Control/OSC/web**」をクリックします。
3. 「**Add**」をクリックし、「**HUI (partial)**」を選択します。
4. **MIDI input** FLkey 2 49 で **MIDI IN 2** を選択します。
5. **MIDI output** FLkey 2 49 で **MIDI OUT 2** を選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックし、ウインドウを閉じます。

macOS

1. **Reaper > Settings... > Control/OSC/web** を開きます
2. 「**Control/OSC/web**」をクリックします。
3. 「**Add**」をクリックし、「**HUI (partial)**」を選択します。
4. 「**MIDI input**」で「**Focusrite - Novation - FLkey 2 49 - DAW Out**」を選択します :
5. 「**MIDI output**」で「**Focusrite - Novation - FLkey 2 49 - DAW In**」を選択します :
6. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックし、ウインドウを閉じます。

Studio One

キーボードコントロール

1. 画面上部のメニュー「**Studio One**」をクリックします。
2. 「**オプション...**」をクリックします。
3. 「**外部デバイス**」をクリックします。
4. 「**追加...**」をクリックします。
5. 「**新規キーボード**」をクリックします。
6. 「**受信元**」および「**送信先**」を FLkey 249 の **MIDI ポート**（最初の項目）に設定します。
7. 「**MIDI クロックを送信**」および「**MIDI クロックスタートを使用**」を有効にします。
8. ウィンドウ下部の「**OK**」をクリックします。

DAW コントロール

1. 画面上部のメニュー「**Studio One**」をクリックします。
2. 「**オプション...**」をクリックします。
3. 「**外部デバイス**」をクリックします。
4. 「**追加...**」をクリックします。
5. 左側のメニューで「**Mackie > HUI**」を選択します。
6. 「**受信元**」および「**送信先**」を FLkey 249 の **DAW ポート**（2 番目の項目）に設定します。
 - Windows の **MIDIIN2** および **MIDIOUT2**。
 - Mac の **DAW**。
7. ウィンドウ下部の「**OK**」をクリックします。

以上でミキサーのコントロールが可能になります。

HUI で使用できる機能は？

HUI がどのように実装されているかは、DAW によって様々ですが、多くの DAW では以下の機能をコントロール可能です。

- **DAW モード** – フォーカストラックの **Mute/Solo**
- **Mixer モード** – エンコーダーでパンを設定します。
- **Sends モード** – エンコーダーで**センド A~E**をコントロールします。ノブ・バンク・ボタンでコントロールするセンドを切り替えることができます。
- **トランスポート・コントロール**は、お使いの DAW のトランスポート機能に割り当てられます。
- Shift ボタンを押しながらエンコーダーを回すと、該当するパラメータ名がディスプレイに表示されます。このとき値は変更されません。

FLkey 249 の設定

設定メニューにアクセスするには、Settings ボタンを押します。設定メニュー有効時は、Settings ボタンが明るく点灯します。

設定メニューのアクセス中は、ディスプレイ、パッド、エンコーダーが設定メニューを操作するための動作に切り替わります。設定メニューは以下の操作でナビゲートできます。

- アップ「^」 / ダウン「v」 ボタンで設定画面を移動します。

設定項目と現在の値がディスプレイに表示されます。



Settings
Part A Channel
1

Settings ボタンをもう一度押すと設定メニューが終了し、パッドモードとエンコーダーモードが最後の状態に復帰します。

以下の項目を設定可能です。

項目	値の範囲	説明	デフォルト値
Part A Channel	1-16	パート A の MIDI チャンネル送信をオンにします。	1
Part B Channel	1-16	パート B の MIDI チャンネルを設定します。	2
Chords Channel	1-16	コードモードの MIDI チャンネルを設定します。	3
Drums Channel	1-16	ドラムモードの MIDI チャンネルを設定します。	10
Vel Curve (Keys)	Soft Normal Hard Fixed	鍵盤のベロシティカーブを設定します。	Normal
Vel Curve (Pads)	Soft Normal Hard Fixed	パッドのベロシティカーブを設定します。	Normal
Fixed Velocity	1-127	アルペジオ・ゲートの固定ベロシティとアクセント値を変更します。	120
Arp Velocity	On/Off	オンにすると、キーボードでアルペジオのベロシティを調整できます。オフの場合、ベロシティはデフォルト値の 100 となります。	On
Arp Note Source	Part A Part B	どちらのパートがアルペジエーターをトリガーするかを設定します。	Part A
Pad Aftertouch	Off Channel Poly	パッドでアフタータッチを送信するかどうか、また送信する場合はアフタータッチのタイプを設定します。	Polyphonic
Pad AT Threshold	Low Normal High	パッドのアフタータッチの開始点 (閾値) を設定します。	Normal
MIDI Clock Out	On/Off	FLkey 2 が MIDI クロックを送信するかどうかを設定します。	On
LED Brightness	1-10	LED の輝度を設定します。	8
Screen Brightness	1-10	ディスプレイの輝度を設定します。	8
Display Timeout	1-10	一時的なメッセージが表示される時間を 1 秒単位で設定します。	5
Encoders Curve	Slow Medium Fast	エンコーダーを回す速さに対して、どのように反応するかを設定します。 Fast モードでは、エンコーダーを素早く回すことで、少ない回転でパラメータの全範囲を操作できます。 Slow モードでは、同じ範囲をより多くの回転で操作できるため、詳細なコントロールが可能です。 いずれのモードでも、エンコーダーをゆっくり回すことで、より正確な調整が行えます。 この設定は、すべてのカスタムモードで有効です。DAW モードでは適用されません。	Medium

項目	値の範囲	説明	デフォルト値
Fader Pickup Type	Jump Pickup	フェーダーの動きに応じて即座に MIDI メッセージが出力されます。 コントロールしたいパラメータの位置に移動した場合にのみ MIDI メッセージが出力されます。これにより、パラメーター値の突発的な変化を防ぎます。	Jump
External Feedback	On/Off	ドラム/カスタムモード時、受信した MIDI メッセージに応じて対応するパッドが点灯します。	On
Vegas Mode	On/Off	Vegas モードのオン/オフを切り替えます。	Off
Power On Modes	フェーダーモード : Custom 1~4 エンコーダーモード : Custom 1~4 パッドモード : Drum ~ Custom	フェーダー、エンコーダーパッドのデフォルトモードを設定します。	フェーダー : Custom 1 エンコーダー : Custom 1 パッド : Drum

FLkey 2 49 重量および寸法

重量	4.08kg (9.00lbs)
高さ	93mm (3.66 インチ)
幅	730mm (28.74 インチ)
奥行	264mm (10.37 インチ)



FLkey 2 49 の寸法

その他の情報

トラブルシューティング

FLkey 2 49 を使い始めるためのヘルプが必要な場合は、こちらをご参照ください：

novationmusic.com/get-started

FLkey 2 49 に関して不明な点がある場合には、いつでもヘルプセンターをご利用いただけます。また、以下の URL からサポートチームにお問い合わせいただくことも可能です：

support.novationmusic.com

FLkey 2 49 を最新の状態に保つため、アップデートの有無を確認することをお勧めします。アップデートを行うことで最新の機能やバグフィックスが適用されます。FLkey 2 49 のファームウェアをアップデートするには、Components を使用する必要があります：

components.novationmusic.com

商標

Novation の商標は Focusrite Audio Engineering Ltd. の所有物です。本マニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novation は、本マニュアルに記載されている情報が正確で完全であることに万全を期しております。本マニュアルまたは記載されている機器の使用に起因する機器、第三者または機器の所有者に対する損失または損害について、Novation はいかなる場合も責任を負いません。本マニュアルに記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権および法定通知

Novation は Focusrite Group PLC の登録商標です。FLkey 2 は Focusrite Group PLC の商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者に帰属します。

2026 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。